ＣＳＣ９０１ＮＴ基本セット
ＣＳＣ９０２基本セット
ＣＳＣ９０３基本セット
FV904基本ｾｯﾄ　FVL-BIS/904

９０Ｘ
ホスト通信
プログラム操作説明書
☆第３版☆

（株）ファースト

御注意

◎本書の内容の一部または全部を無断で転載することは固くお断りします。
◎本書の内容について、将来改良を目的に予告なしに変更することがあります。
◎MS-DOS™は、Microsoft Corporationの商標です。
◎MS-Windows95™は、Microsoft Corporationの商標です。
◎MS-WindowsNT™は、Microsoft Corporationの商標です。
◎WinRT™は、Blue Water Systemsの商標です。
◎Install SHIELD™は、Stirling Technologies,Inc.の商標です。

はじめに

この説明書は以下のバージョン以降に対応しています。

ＤＯＳ版

ＣＴＬ９０１……Ｖｅｒ．４．４０
ＣＴＬ９０１Ｅ……Ｖｅｒ．４．４０

Ｗｉｎｄｏｗｓ版

ＣＴＬＷＩＮ９８……Ｖｅｒ．１．５０
ＣＴＬＷＩＮＡＴ……Ｖｅｒ．１．５０

本書は、スーパビジョン９０Ｘホスト通信プログラムの取扱い方法に関する事項について記載したものです。

ホスト通信プログラムとして、ＤＯＳ版のＰＣ９８用及びＰＣ／ＡＴ用の２種類とWindows95/NT版を提供致します。

それぞれ同等の機能を持っておりますが、操作が違います。

第１編にはＤＯＳ版　ＰＣ９８用、第２編にはＤＯＳ版　ＰＣ／ＡＴ用、第３編にはWindows95/NT版の操作説明を記載しています。

なお、下記の説明書も併せて御参照ください。

・９０Ｘ　操作説明書
・ＰＣ９８　Ｃ－ＮＥＴ　Ｉ／Ｆボード取扱説明書
・ＰＣ／ＡＴ　Ｃ－ＮＥＴ　Ｉ／Ｆボード説明書

本書では、シリアル通信の伝送方式の仕様を表すために「ＲＳ－２３２Ｃ（ＲＳ２３２Ｃ）」という表記がありますが、この表記は古い表記形式です。現在では、「ＲＳ－２３２Ｃ（ＲＳ２３２Ｃ）」に替わって「ＥＩＡ－２３２」という表記が正しい形式です。しかしながら、歴史的に長らく使われてきた経緯、および現在でも広く認知されていることから本書では旧表記形式を使用しています。

表記形式が替わっても規格定義内容は同じです。

目　次

第１編　ＰＣ９８用

１．概　要 ・・・

目　　次

第２編　ＰＣ／ＡＴ用

１．概　要 ・・・

目　次

第3編　Ｗｉｎｄｏｗｓ用

１．概　要 ・・・

目　　次

第１編
ＰＣ９８用

Ｃ－ＮＥＴを使用する際の注意事項

ＰＣ－９８００シリーズをご使用のお客様へ

サウンド機能が内蔵されているＰＣ－９８００シリーズでＣ－ＮＥＴを使用する場合、サウンド機能の割り込みレベル（ＩＮＴ５）とＣ－ＮＥＴの工場出荷時の割り込みレベルが衝突する可能性があります。

この場合は、Ｃ－ＮＥＴの割り込みレベルを変更するか、ＰＣ－９８００シリーズの内蔵サウンド機能を切り放す必要があります。

Ｃ－ＮＥＴの割り込みレベルの変更の仕方は、

“ **ＰＣ９８　Ｃ－ＮＥＴ　Ｉ／Ｆボード　取扱説明書** ”

をご覧ください。

ＰＣ－９８００シリーズの内蔵サウンド機能の切り放しの仕方

① ［ＨＥＬＰ］ キーを押しながら電源をＯＮにします。

② ［↑］ ［↓］ キーを押して反転表示を上下に動かしてメインメニューから動作環境の設定を選択し、［・］ キーを押します。

③ ［↑］ ［↓］ キーでサウンドの項目を選択し、［→］ ［←］ キーで設定値を“ 使用しない ”に設定します。

④ ［ＥＳＣ］ キーを押すか、“ 終了 ”の項目を選択し［・］ キーを押します。

⑤ メインメニューを④と同じ方法で終了し、再起動します。

１．概　要

本プログラム（以下ＣＴＬ９０１と呼ぶ）は、９０Ｘとホスト計算機の通信を行うユーティリティで、以下の機能を持っています。

☆システム構築（インストール・バージョンアップ）
☆ファイル操作
☆ターミナル

９０２シリーズの場合は、本プログラムを使用してシステム構築のインストールはできません。

動作環境

ＮＥＣ　ＰＣ－９８０１シリーズ
ＭＳ－ＤＯＳ　３．１以上

通信機器

「ＲＳ－２３２Ｃ」，「Ｃ－ＬＩＮＫ」，「Ｃ－ＮＥＴ」，「パラレル・リンク」の４つの通信系統が用意されています。
通信速度はＲＳ－２３２Ｃを１とした場合Ｃ－ＮＥＴが６０～８０倍(4Mbps)，Ｃ－ＬＩＮＫは、パソコンの性能にも依存しますが５～８倍(50Kbps～100Kbps)、パラレル・リンクもパソコンの性能にも依存しますが２５～４０倍になります。

☆ＲＳ－２３２Ｃ，Ｃ－ＬＩＮＫ
ＰＣ－９８０１の背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタと、９０Ｘの背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタ（ＣＨ０またはＣＨ１）を標準添付されているＲＳ－２３２Ｃシリアル（クロス）ケーブルで接続してください。

☆Ｃ－ＮＥＴ
PC98 C-NET I/Fボードのコネクタと、９０Ｘ背面Ｃ－ＮＥＴコネクタをC-NET I/Fケーブルで接続してください。（PC98 C-NET I/Fボードと、C-NET I/Fケーブルはオプションです。）

☆パラレル・リンク
ＰＣ－９８０１の背面のプリンタ用コネクタと、９０２背面のパラレル・リンクポートをパラレル・リンクケーブルで接続してください。
ＰＣ－９８０１では、双方向フルセントモードをサポートしている機種（３６ｐｉｎハーフピッチコネクタが付いているもの（ＰＣ９８２１ＡＰ２以降））でサポートされています。

［参考］
各通信機器の通信速度例として、ホストのハードディスク上のファイルをＣＳＣ９０２ａの
ＦＳ０にファイルコピーした場合は以下のようになります。

ホスト　　ＰＣ９８２１Ｘａ７（Pentium™プロセッサ，75MHz）
　　エンハンスドＩＤＥハードディスク

９０２　　ＦＳ０は、フラッシュ・ファイル・カード

ファイル　　１００Ｋｂｙｔｅ

通信機器	時間
ＲＳ－２３２Ｃ(9600bps)	約　１３０秒
Ｃ－ＬＩＮＫ	約　　１２秒
Ｃ－ＮＥＴ	約　　２秒
パラレル・リンク	約　　３秒

時間は、ホストのディスクアクセスを含みます。

注意

本プログラムでは、パラレル・リンクのことをＰ－ＬＩＮＫと呼んでいます。

ディスクの内容

添付されているフロッピーディスクは、機種により以下のように異なります。

●９０１シリーズの場合

◎システム＃１フロッピーディスク

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

●９０２シリーズの場合

◎９０２システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

●９０３シリーズの場合

◎９０３システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

●９０４シリーズの場合

◎９０４システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

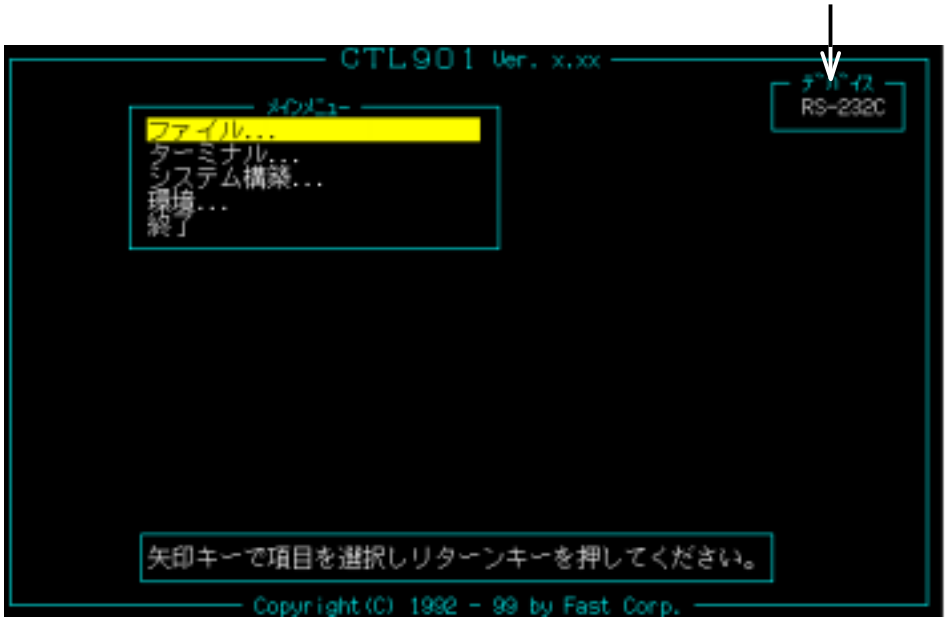
起　動

ＣＴＬ９０１を起動するのは簡単です。
ＣＴＬ９０１のディレクトリに移って、ＤＯＳのコマンドラインから

ＣＴＬ９０１ ・ と入力してください。

ＣＴＬ９０１が起動するとメインメニューウインドウが表示されます。
このメニューから各処理に進みます。

現在選択されている通信機器
(RS-232C,C-LINK,C-NET,P-LINK)を表示します。



注意

起動時に環境ファイル（ｶﾚﾝﾄﾃﾞｨﾚｸﾄﾘのCTL901.ENV）の内容によって、ＣＴＬ９０１の動作環境（通信機器の種類等）を設定します。
環境ファイルが見つからない場合は下記メッセージを表示し動作環境をデフォルトに設定します。

環境設定については「**2.3　［環境設定］ウインドウ**」を参照してください。

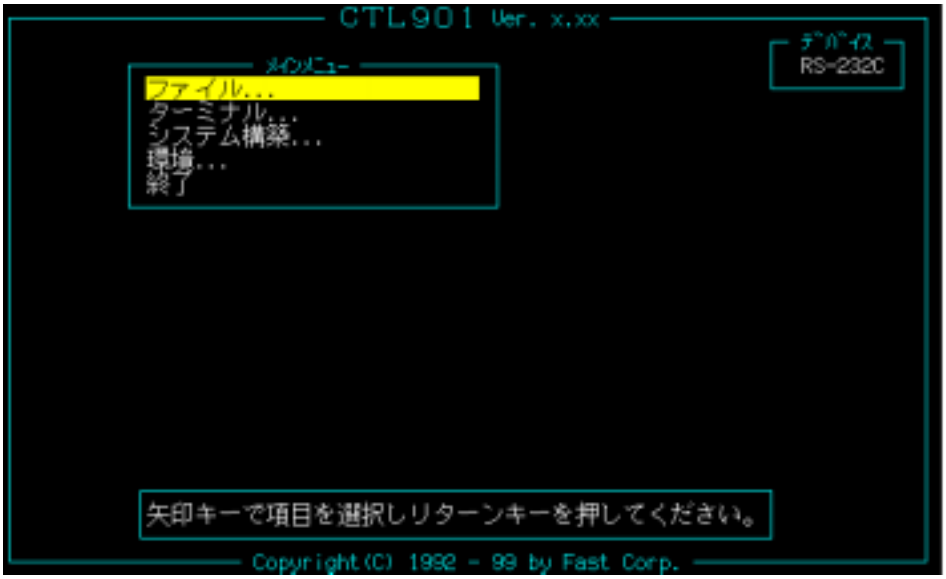
ＣＴＬ９０１でファイル操作、ターミナル、インストールを行う時は、９０Ｘ本体は、「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

日本語モード

英語モード

２．操作の手順

ＣＴＬ９０１の操作は、項目を選択すると対応する操作の**［ウインドウ］**が次々とオーバラップ表示されアクティブ状態となっていきます。［ウインドウ］のタイプはいくつかありますが、メインメニューウインドウ以外は**「ＥＳＣ」**キーで終了します。



「リターン」キー↓　　↑「ＥＳＣ」キー

［ファイル操作］ウインドウがアクティブとなる

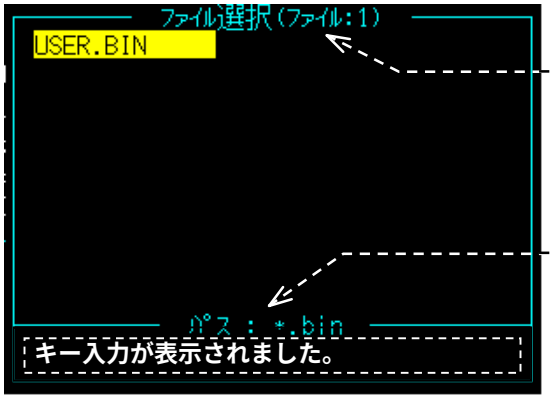
［注意］ウインドウ枠の表示色について
通常の「ウインドウ」の外枠はシアン（青）、エラーメッセージの外枠はマゼンタ（赤）で表示されます。（但し、［環境設定］の「表示色」が「カラー」となっている場合です。）

2.1　共通ウインドウ

ホスト側および９０Ｘのファイル選択操作時、例えば
　　☆ユーザープログラムのダウンロード
　　☆ファイルのコピー
等の操作時に、共通に使用されるウインドウがあります。

2.1.1　ホスト側ファイル選択ウインドウ

ホスト側のファイルを指定するもので、下記の形式で表示されます。



ファイルの数が表示されます。

現在のパスが表示されます。

[操作方法]

①上下の矢印キーによる選択
　上下の矢印キーによりウインドウ内に表示されているファイルを選択（反転表示）し、「リターン」キーを押します。

②キーによる直接入力
　キーによりファイル名を直接入力し、「リターン」キーを押します。

③ウインドウの再表示
　キーにより
　　☆「ワイルドカード」が含まれているファイル名を入力
　　☆最後が“￥”で終わる入力（ディレクトリの入力）
　をした場合は、ウインドウ内のファイルを再表示します。

　［例１］ワイルドカードを使用し拡張子が「ＢＩＮ」のファイルを再表示する場合
　　＊．ＢＩＮ　　と入力しリターンキーを押してください。
　［例２］Ｂドライブの￥ＣＳＣ￥９０１の下のファイルを再表示する場合
　　Ｂ：￥ＣＳＣ￥９０１￥　　と入力しリターンキーを押してください。

［注１］最初にウインドウ内に表示されるファイルのパスは［環境設定ウインドウ］の「ユーザーディレクトリ」で設定したものです。
［注２］ファイルの数が最大数（１００個）を越えた場合はメッセージを表示し、越えた分を省略してウインドウ内に表示します。
　この場合はキーによりファイル名を入力するか、ワイルドカードを使用してファイルを探してください。

2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ

９０Ｘ側のファイルを指定する場合は

９０Ｘパス選択ウインドウ → **９０Ｘファイル選択ウインドウ**

の手順で操作して、９０Ｘのファイル名を決定します。

［９０Ｘパス選択ウインドウ］

９０Ｘ側のパスを指定するもので、下記の形式で表示されます。

FS0～FS3 ：ファイル装置番号０～３のファイルを選択
（現在は FS0 のみ有効）

STORAGE ：メインメモリ上のデータファイルを選択
EXECUTOR:メインメモリ上のユーザプログラムを選択

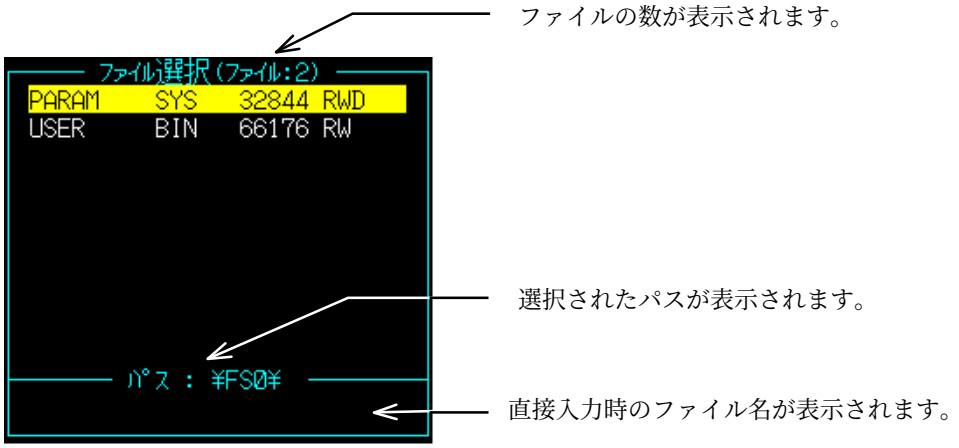
［操作方法］

上下の矢印キーによりウインドウ内に表示されているパスを選択（反転表示）し、「リターン」キーを押します。

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０は、サポートしておりません。

［９０Ｘファイル選択ウインドウ］

９０Ｘ側のファイルを指定するもので、選択された「パス」のファイルが下記の形式で表示されます。



［操作方法］

①上下の矢印キーによる選択

上下の矢印キーによりウインドウ内に表示されているファイルを選択（反転表示）し、「リターン」キーを押します。

②キーによる直接入力

キーによりファイル名を直接入力し、「リターン」キーを押します。

③ファイル名の省略

コピーの転送先としてファイル名を省略（転送元ファイル名と同じにする）したい場合は、「ＥＳＣ」キーを押します。

2.1.3　ノード選択ウインドウ

９０Ｘとの「通信デバイス」がＣ－ＮＥＴの場合、ターゲット９０Ｘのノード番号を選択します。
「通信デバイス」がＣ－ＬＩＮＫの場合は、ノード選択ウインドウでのノード変更はできません。
変更する場合は「環境設定」ウインドウの「Ｃ－ＬＩＮＫ環境」ウインドウで行います。

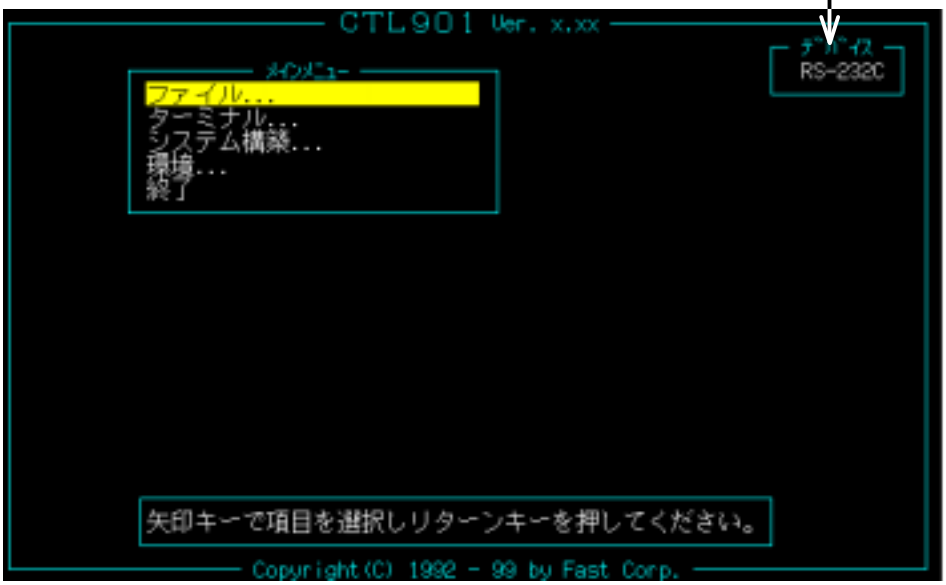
[操作方法]

上下の矢印キーによりウインドウ内に表示されているノード番号を選択（反転表示）し、「リターン」キーを押します。

2.2 ［メインメニュー］ウィンドウ

ＣＴＬ９０１が起動すると、最初に表示される［ウインドウ］です。

現在選択されている通信機器
(RS-232C,C-LINK,C-NET,P-LINK)を表示します。



［操作方法］

反転表示されているのが現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）でメニューを選択して、リターンキーで確定します。

☆ファイル――――**→ファイル操作**ウインドウへ
ユーザープログラムのダウンロード等、各種ファイル操作を行います。

☆ターミナル――――**→ターミナル**ウインドウへ
９０Ｘのターミナルになります。

☆システム構築――――**→システム構築**ウインドウへ
システムのインストール，バージョンアップを行います。

☆環境――――**→環境設定**ウインドウへ
ＣＴＬ９０１の動作環境を設定します。

☆終了
ＣＴＬ９０１を終了しＤＯＳに戻ります。

最初に **環境** を選択して、ＣＴＬ９０１の動作環境を設定します。

2.3 ［環境設定］ウインドウ

ＣＴＬ９０１の動作環境を設定し、環境ファイル（ＣＴＬ９０１．ＥＮＶ）を作成します。

環境設定ウインドウの表示例（デフォルト値）

［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。
項目の右側にパラメータ列があるものは、左右の矢印キー（←→）で選択します。

［注］Ver.3.20以前のものでは、システムディレクトリ．．．には何も表示されず、カレントディレクトリとなります。

☆通信デバイス

９０Ｘと通信するデバイスを切り替えます。

→９０Ｘ本体の通信機器と**必ず一致させてください！！**

「リターン」キーで

ＲＳ－２３２Ｃ環境ウインドウ
Ｃ－ＮＥＴ環境ウインドウ
Ｃ－ＬＩＮＫ環境ウインドウ

になります。

☆表示色

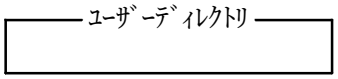
ディスプレイの表示色を設定します。
９８ＮＯＴＥシリーズなどモノクロディスプレイの場合は「白黒」の設定でお使いください。

☆リトライタイム

通信中にリトライ可能なエラーが発生した場合に、リトライを繰り返す時間を秒単位で設定します。
省略時は３０秒となります。設定範囲は１～９９です。

☆ユーザーディレクトリ

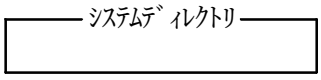
このディレクトリはファイル操作時のサーチパスとして使用されます。
省略時はカレントディレクトリになります。
「リターン」キーで、下記のユーザーディレクトリ入力ウインドウが表示されますので、
ユーザープログラムなどがはいっているディレクトリを入力します。



［入力例］
Ｂ：￥ＵＳＲ９０１

☆システムディレクトリ

このディレクトリはシステム構築時のサーチパスとして使用されます。
省略時はカレントディレクトリになります。
「リターン」キーで、下記のシステムディレクトリ入力ウインドウが表示されますので、
９０１，９０２システムプログラムがはいっているディレクトリを入力します。



［入力例］
Ａ：￥ＳＹＳ９０１

☆環境の保存

「リターン」キーで、現在の環境を環境ファイル（ＣＴＬ９０１．ＥＮＶ）に保存します。
環境を保存しないで「ＥＳＣ」キーで環境ウインドウを終了した場合は今回起動時のみ有効となります。

注意

「９０Ｘ　操作説明書」に記載されている「システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定」で

エコーバック　　ＯＮ
ターミネート　　ＣＲ／ＬＦ

に必ず設定してください。

（９０Ｘの操作手順）
システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

2.3.1 ［環境設定］＞［ＲＳ－２３２Ｃ環境］ウインドウ

ＲＳ－２３２Ｃの通信パラメータを設定します。下記設定がデフォルトになります。

［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。
項目の右側にパラメータ列があるものは、左右の矢印キー（←→）で選択します。

☆ボーレート

ＲＳ－２３２Ｃのボーレートを指定します。

☆データビット

ＲＳ－２３２Ｃのデータ長を指定します。

☆ストップビット

ＲＳ－２３２Ｃのストップビット長を指定します。

☆パリティ

ＲＳ－２３２Ｃのパリティを指定します。

☆ＣＳＣ９０Ｘ

９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

［注］９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、データビットを８に設定してください。

2.3.2 ［環境設定］＞［Ｃ－ＮＥＴ環境］ウインドウ

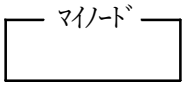
Ｃ－ＮＥＴの通信パラメータを設定します。マイノード以外はＰＣ９８ Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチ設定と同じ設定をしてください。下記設定がデフォルトになります。

[操作方法]

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。
項目の右側にパラメータ列があるものは、左右の矢印キー（←→）で選択します。

☆マイノード

ホスト計算機自身の「Ｃ－ＮＥＴノード番号」です。通常は“０”で使用してください。
「リターン」キーで、マイノード入力ウインドウが表示されますので入力します。



設定範囲は０～７です。

☆ポートＩ／Ｏアドレス

Ｃ０ ……Ｃ０ＸＸｈ
Ｃ１ ……Ｃ１ＸＸｈ
Ｃ２ ……Ｃ２ＸＸｈ
Ｃ３ ……Ｃ３ＸＸｈ

☆バッファアドレス

Ｃ０ ……Ｃ０００００ｈ～Ｃ３ＦＦＦｈ　　Ｄ０……Ｄ０００００ｈ～Ｄ３ＦＦＦｈ
Ｃ４ ……Ｃ４０００ｈ～Ｃ７ＦＦＦｈ　　Ｄ４……Ｄ４０００ｈ～Ｄ７ＦＦＦｈ
Ｃ８ ……Ｃ８０００ｈ～ＣＢＦＦＦｈ　　Ｄ８……Ｄ８０００ｈ～ＤＢＦＦＦｈ
ＣＣ ……ＣＣ０００ｈ～ＣＦＦＦＦｈ　　ＤＣ……ＤＣ０００ｈ～ＤＦＦＦＦｈ

☆割り込みレベル

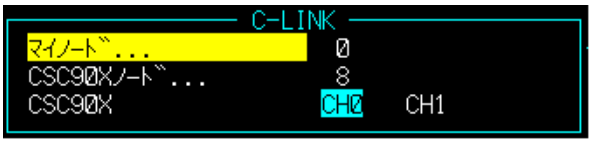
ＩＲＱ９（ＩＮＴ３）は固定ディスク、ＩＲＱ１０（ＩＮＴ４１）は６４０ＫＢ　ＦＤ、
ＩＲＱ１３（ＩＮＴ６）はマウス割り込みと競合する可能性がありますので注意してください。

注意

Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチの設定の詳細は「**ＰＣ９８　Ｃ－ＮＥＴ　Ｉ／Ｆボード取扱説明書**」を参照してください。

2.3.3 ［環境設定］＞［Ｃ－ＬＩＮＫ環境］ウインドウ

Ｃ－ＬＩＮＫの通信パラメータを設定します。下記設定がデフォルトになります。

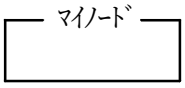


［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。
項目の右側にパラメータ列があるものは、左右の矢印キー（←→）で選択します。

☆マイノード

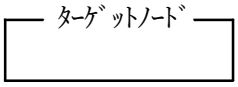
ホスト計算機自身の「Ｃ－ＬＩＮＫノード番号」です。通常は“０”で使用してください。
「リターン」キーで、マイノード入力ウインドウが表示されますので入力します。



設定範囲は０～７です。

☆ＣＳＣ９０Ｘノード

ターゲット９０Ｘの「Ｃ－ＬＩＮＫノード番号」です。
「リターン」キーで、ターゲットノード入力ウインドウが表示されますので入力します。



設定範囲は８～６３です。

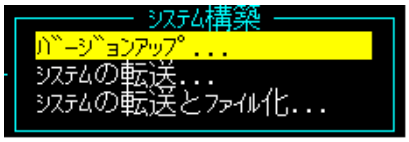
☆ＣＳＣ９０Ｘ

９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

［注］９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、RS-232C環境のデータビットを８に設定してください。

2.4　［システム構築］ ウインドウ

９０Ｘシステムプログラムの
インストール および **バージョンアップ**
を行います。
９０２シリーズの場合インストールは、使用できませんので御注意ください。



[操作方法]

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択し「リターン」キーを押します。
実際の処理にともなって下記のメッセージが表示されます。

ノード選択ウインドウ － 転送開始 － 転送途中 － 転送終了

ノード選択ウインドウは、「通信デバイス」がＣ－ＮＥＴの場合のみ表示されます。

☆バージョンアップ

９０１，９０２システムプログラムをバージョンアップする時に使用します。
ホスト計算機のディスクから、９０１，９０２システムプログラムを読み込み、ファイル装置に書き込みます。

☆システムの転送

ＲＳ２３２Ｃを使用してインストールをする時に使用します。
９０１システムプログラム(901.SYS)を、ホスト計算機のディスクから読み込み、９０１のメインメモリに転送します。９０２シリーズの場合は、使用できません。

☆システムの転送とファイル化

Ｃ－ＬＩＮＫ,Ｃ－ＮＥＴを使用して、９０１システムのインストールをする時に使用します。
まず、９０１システムプログラム(901.SYS)を、ホスト計算機のディスクから読み込み、
９０１のメインメモリに転送します。
続けて、９０１システムプログラム＆ローダ(901.SYS, 901.BOT)を９０１のファイル装置に書き込みます。９０２シリーズの場合は、使用できません。

注意

［注１］システムプログラムは、**環境設定**ウインドウの**システムディレクトリ**で設定したディレクトリ下になければなりません。（システムディレクトリに何も設定されていない時はカレントディレクトリになっていなければなりません）

［注２］**バージョンアップ**を実行する時、９０Ｘ本体は、「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

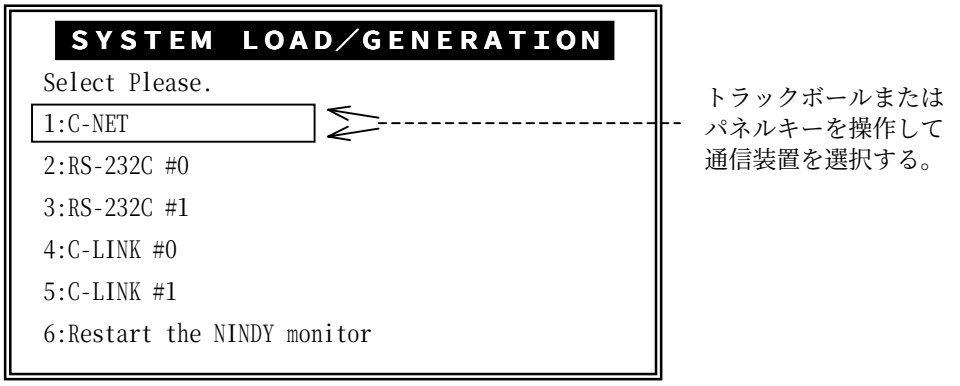
日本語モード

英語モード

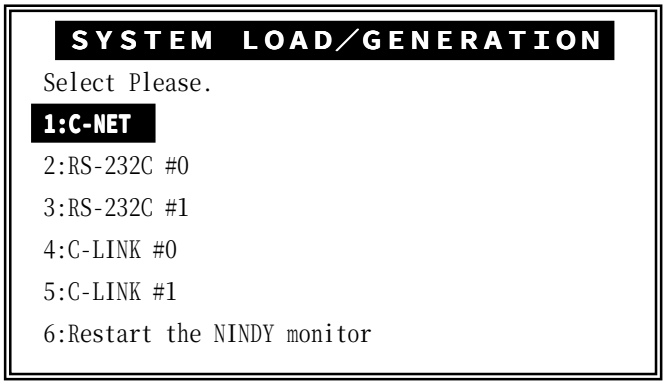
［注３］**システムの転送**および**システムの転送とファイル化**を実行する時、９０１本体は、「システムのインストール要求」画面になっていなければなりません。

＜９０１本体の操作＞

転送を始める前に、下記の操作で通信装置を決定しておいてください。



トラックボールの場合「左ボタン」で、パネルキーの場合「・」キーで通信装置を決定する。(C-NET を使用する例)



［注］９０１シリーズの機種により表示される内容が異なります。御留意ください。

［注４］**ＲＳ２３２Ｃ**を使用してシステムの**インストール**を行う場合の手順

①まず**システムの転送**を行います。（［注３］で通信装置でＲＳ２３２Ｃを選択）

②「９０Ｘ　操作説明書」に記載されているシステムメニュー操作で、９０１のシステムコマンドの通信装置としてＲＳ２３２Ｃを選択します。

（９０１の操作手順）

システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

システムパラメーター入出力設定－ＲＳ２３２Ｃパラメータ設定

☆セーブは絶対に行わないでください。

③９０１を「ホームメニュー」画面にします。

④最後に**バージョンアップ**を行います。

［注５］９０１本体のファイル装置

本体前面のファイル装置実装スロットに、ファイル装置が実装されている事を確認してください。

なお、ＳＲＡＭカードファイル装置の場合はＳＲＡＭカード（MF32M0-M6DAP01三菱製）が、ＰＣカードファイル装置の場合はＰＣカードが装着されている事を確認してください。

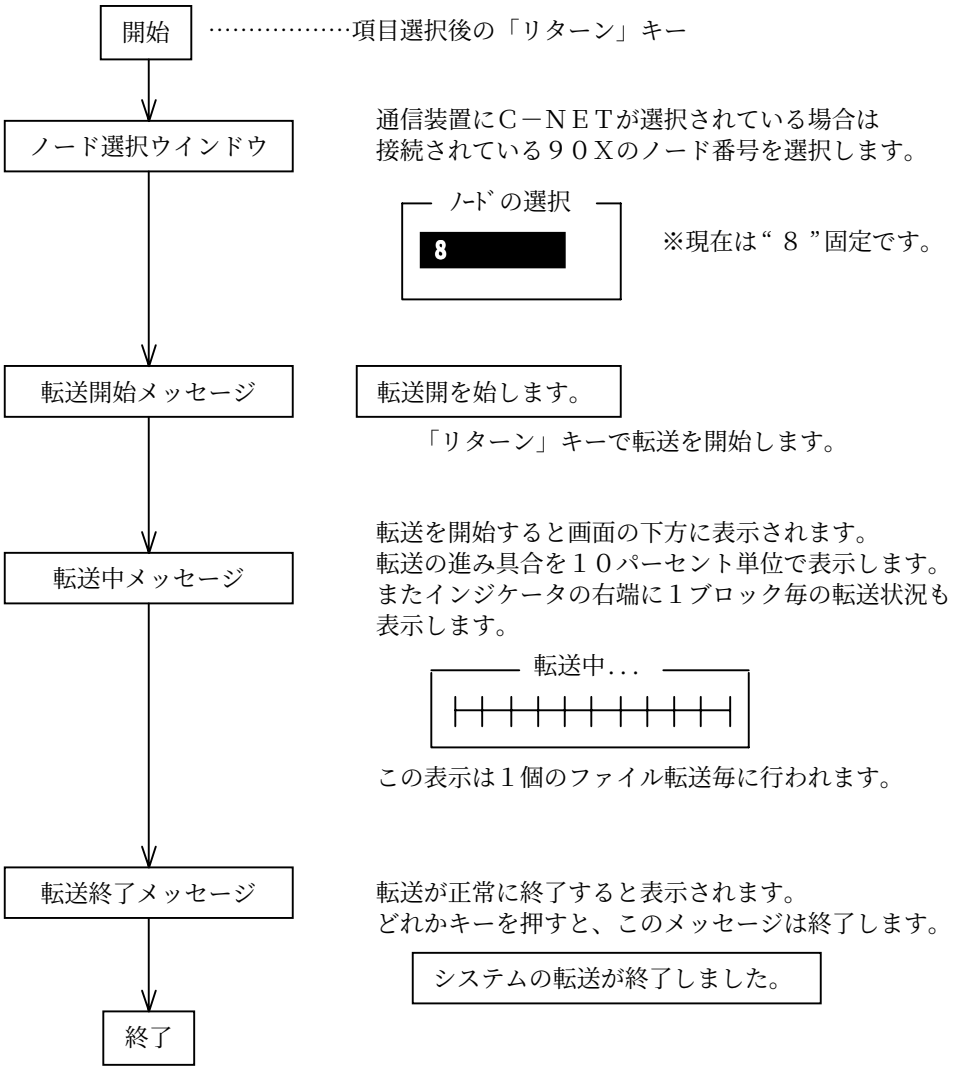
［注６］リトライタイムについて

システムインストール時にはリトライタイムを最低５秒にしてください。

５秒以下の場合、転送が正常にいかない場合があります。

［注７］システムの転送およびファイル化の作業が終了後、**必ず９０１本体をリセット**してください。ファイル装置にインストールしたシステムが起動します。

転送時の確認メッセージ



［注］９０Ｘのノード番号設定は、「９０Ｘ　操作説明書」の
システムパラメーター入出力設定－Ｃ－ＮＥＴパラメータ設定

あるいは

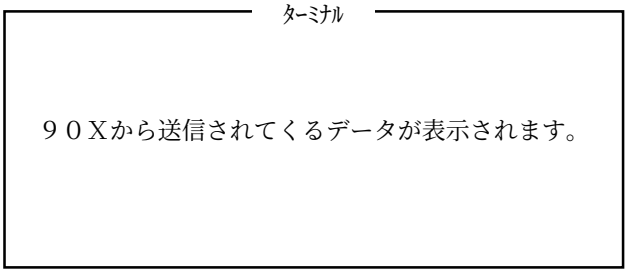
システムパラメーター入出力設定－Ｃ－ＬＩＮＫパラメータ設定

を参照してください。

2.5 ［ターミナル］ウインドウ

ホスト計算機を、９０Ｘのターミナルにします。
Ｃ－ＮＥＴの場合は、［ノード選択］ウインドウが表示されますので、９０Ｘのノード番号を選択してください。

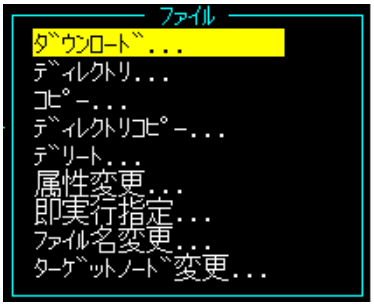
［ターミナル］ウインドウ



［ＥＳＣ］キーで終了します。

2.6 ［ファイル操作］ウインドウ

９０Ｘの各種ファイル操作を選択するウインドウです。「ＥＳＣ」キーで終了します。



［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。
「リターン」キーを押すと、項目に対応した操作ウインドウがアクティブとなります。

☆ダウンロード

ユーザープログラムを９０Ｘのメインメモリの実行エリアに転送します。
（ユーザープログラム以外の転送は、コピー機能で行ってください。）

☆ディレクトリ

９０Ｘファイル装置のディレクトリ情報を表示します。

☆コピー

ホスト計算機－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でコピーを行います。

☆ディレクトリコピー

ホスト計算機－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でのディレクトリ単位のコピーを行います。

☆デリート

９０Ｘのファイルを削除します。

☆属性変更

９０Ｘのファイル属性を変更します。

☆即実行指定

９０Ｘの電源投入時に、即実行するユーザープログラムを設定します。

☆ファイル名変更

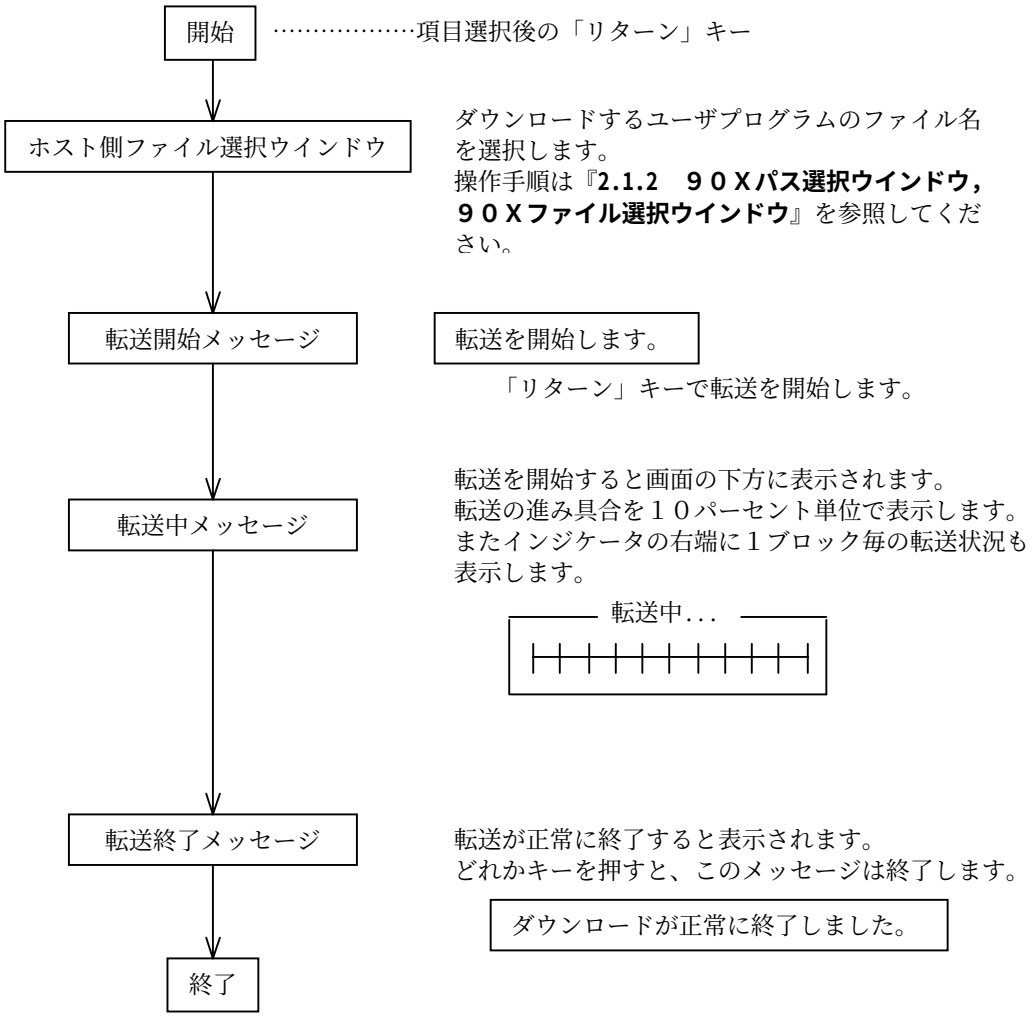
９０Ｘのファイル名を変更します。

☆ターゲットノード変更

通信デバイスが「Ｃ－ＮＥＴ」時に、ターゲット９０Ｘのノード番号を指定します。

2.6.1 ［ファイル操作］＞ **［ダウンロード］** ウインドウ

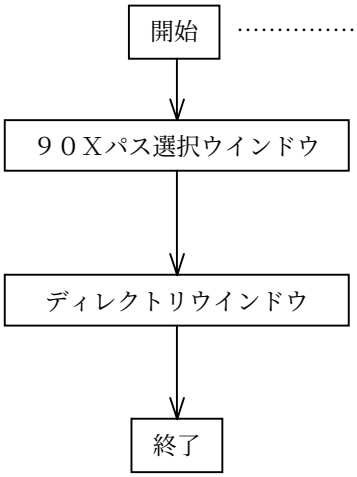
下記の手順で操作します。



［注］ダウンロードされるファイルは全て９０Ｘ上のフォーマットになっている必要があります。
９０１用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901.EXE」，
９０２用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時はユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

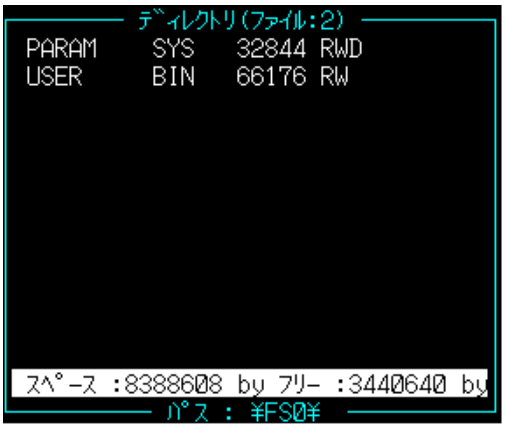
2.6.2 ［ファイル操作］＞ **［ディレクトリ］** ウインドウ

９０Ｘのファイルを表示します。下記の手順で操作します。



ディレクトリを表示する９０Ｘのパスを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

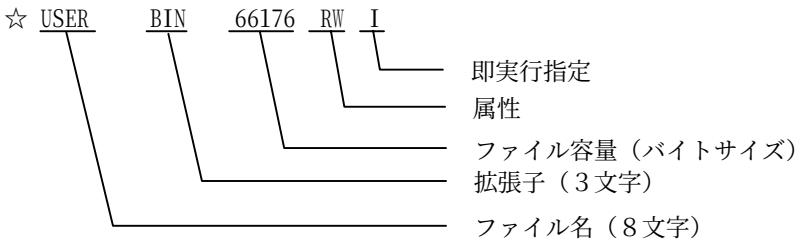
［ディレクトリウインドウ］の表示形式です。「ＥＳＣ」キーで終了します。



ウインドウ内に表示しきれない場合は、
上下の矢印キーで画面がスクロールします。

・ｽﾍﾟｰｽ : XXX の XXX には
　ファイル装置の総容量が表示されます。

・ﾌﾘｰ : XXX の XXX には
　ファイル装置の空き容量が表示されます。



☆属性

RW ・・・・・ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ属性
R ・・・・・・ﾘｰﾄﾞｵﾝﾘｰ属性
W ・・・・・・ﾗｲﾄｵﾝﾘｰ属性
RWD ・・・・・ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
RD ・・・・・・ﾘｰﾄﾞ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
WD ・・・・・・ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性

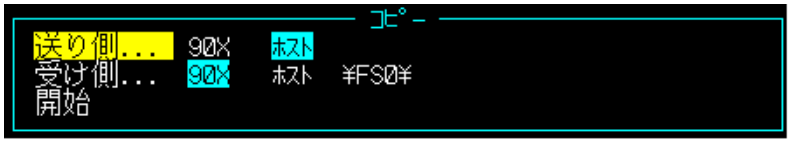
☆即実行指定

Ｉ・・・・・・即実行指定されています。

2.6.3 ［ファイル操作］＞ **［コピー］** ウインドウ

ホスト－９０X間および、９０X内部でのファイルコピーを行います。

［コピーウインドウ］の表示形式です。



［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。

☆送り側

コピーするときの、転送元のファイル・パス名を指定します。

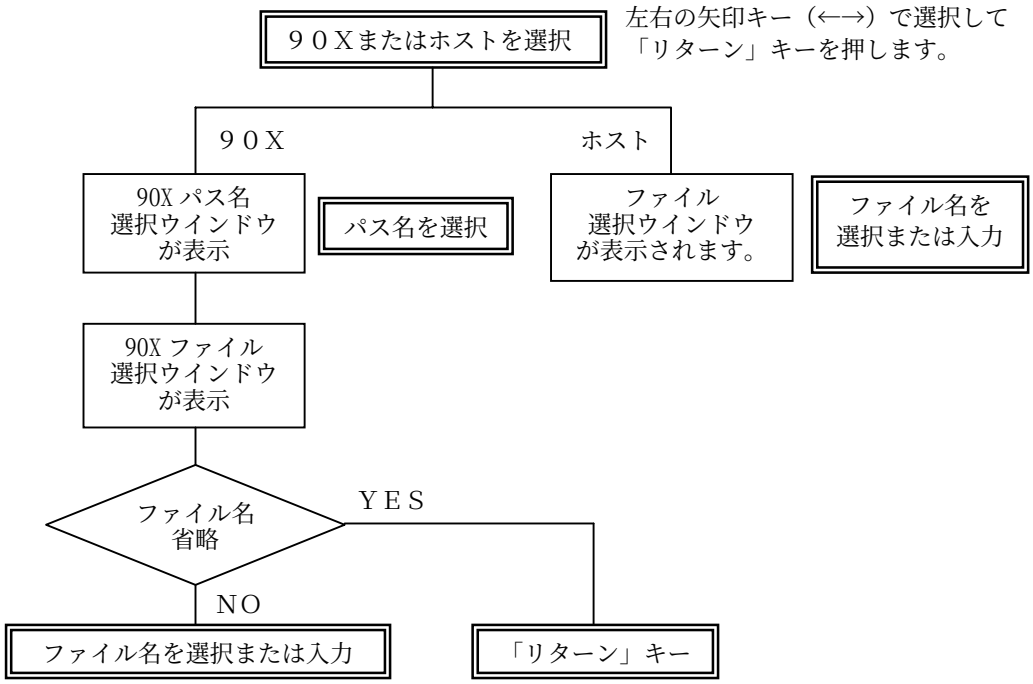
☆受け側

コピーするときの、転送先のファイル・パス名を指定します。
ファイル名を省略した場合は、送り側と同じファイル名になります。
但し、ディレクトリ名を省略することはできません。

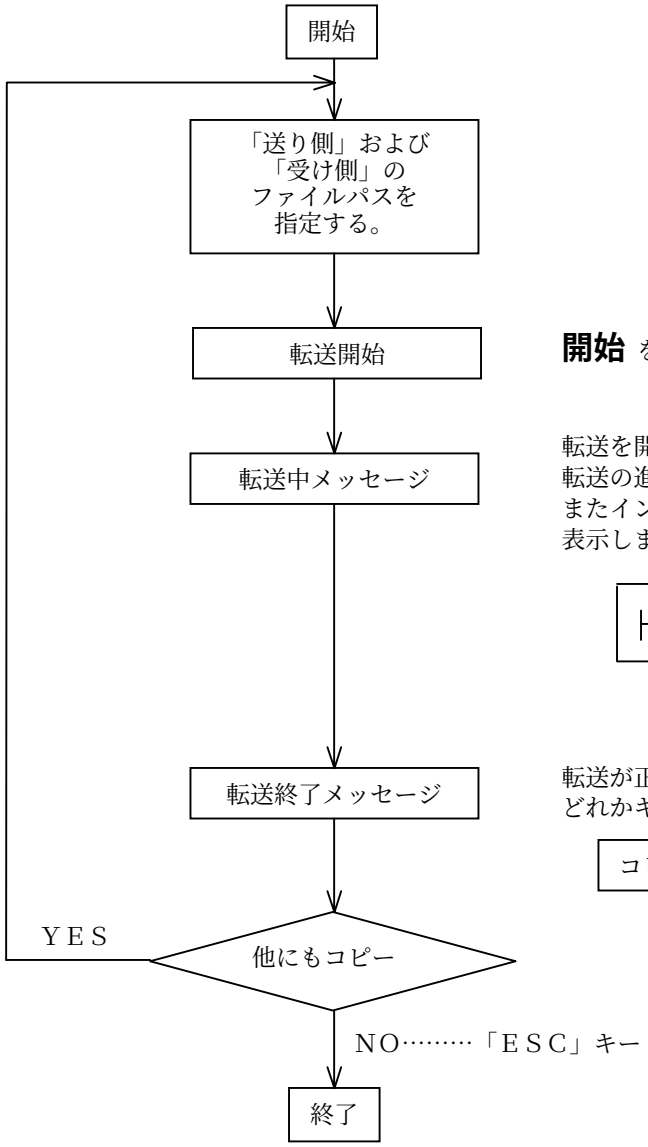
☆開始

「リターン」キーで、コピーを開始します。

［ファイル・パス］の指定方法

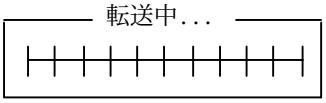


コピーの操作手順



開始 を選択して「リターン」キーを押します。

転送を開始すると画面の下方に表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位で表示します。
またインジケータの右端に１ブロック毎の転送状況も
表示します。



転送が正常に終了すると表示されます。
どれかキーを押すと、このメッセージは終了します。

コピーが正常に終了しました。

［注］ホストから９０Ｘへコピーされるファイルは全て９０Ｘ上のフォーマットになっている必要があります。９０１用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901.EXE」、９０２用実行ファイルおよびデータファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時は、ユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

2.6.4 ［ファイル操作］＞［ディレクトリコピー］ウインドウ

ホスト－９０X間および、９０X内部でのディレクトリ単位のファイルコピーを行います。

［ディレクトリコピーウインドウ］の表示形式です。

［操作方法］

反転表示されているのが、現在選択されている項目です。
上下の矢印キー（↑↓）で項目を選択します。

☆送り側

コピーするときの、転送元のディレクトリ名を指定します。
ディレクトリ名の最後に¥を付けてください。

☆受け側

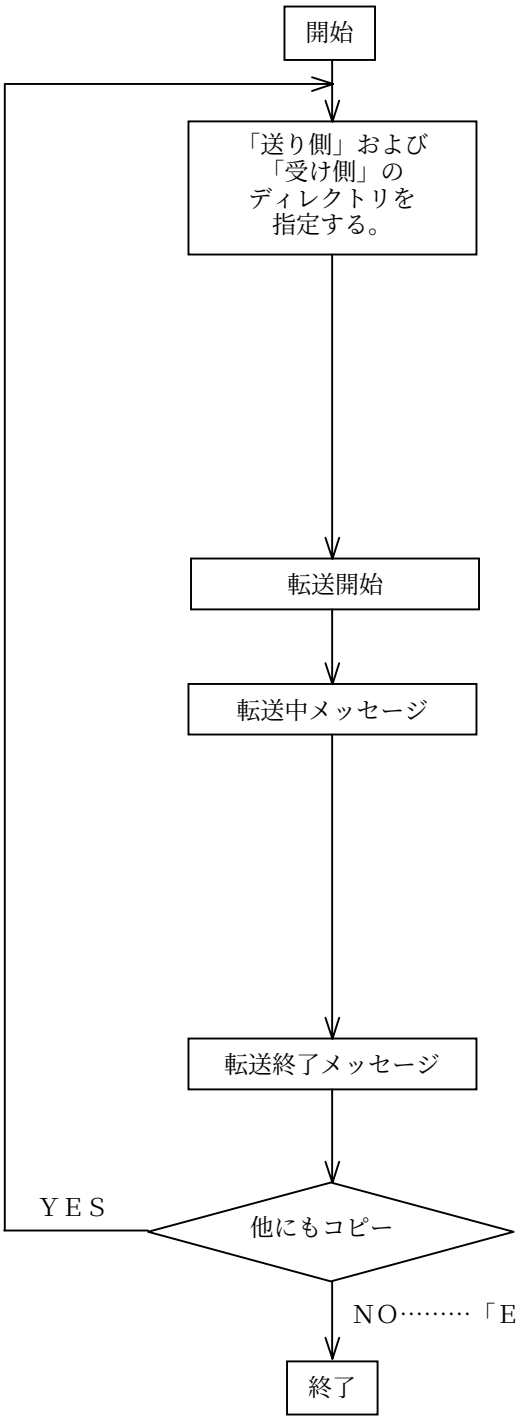
コピーするときの、転送先のディレクトリ名を指定します。
ディレクトリ名の最後に¥を付けてください。
ディレクトリ名を省略した場合は、カレントディレクトリに転送されます。

☆開始

「リターン」キーで、コピーを開始します。

［注］ホストから９０Xへディレクトリコピーされるファイルは全て９０X上のフォーマットになっている必要があります。
９０１用実行ファイルを９０X上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901.EXE」、９０２用実行ファイルおよびデータファイルを９０X上のフォーマットにする時はユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

ディレクトリコピーの操作手順



「送り側」をホストにした場合のみ
ディレクトリ指定後、ファイルの拡張子を
指定できます。
「ＥＳＣ」キーを押した場合は、*.*で
ファイルをコピーします。

ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ選択(ﾃﾞｨﾚｸﾄﾘ:X)

\ ……ルートディレクトリ
……カレントディレクトリ
～\ ……サブディレクトリ
～\

開始 を選択して、「リターン」キーを押します。

転送を開始すると画面の下方に表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位で表示します。
またインジケータの右端に１ブロック毎の転送状況も
表示します。

転送中...

「受け側」のディレクトリ内にすでにファイルが存在
している場合、上書きするかどうか聞いてきますので
メッセージに従ってください。

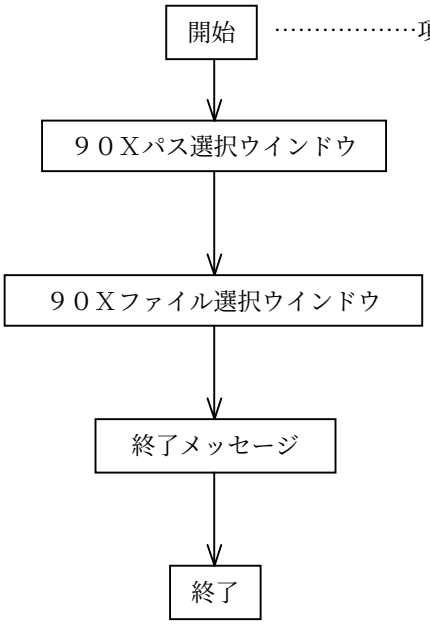
転送が正常に終了すると表示されます。
どれかキーを押すと、このメッセージは終了します。

コピーが正常に終了しました。

2.6.5 ［ファイル操作］＞ **［デリート］** ウインドウ

９０のＸファイルを削除します。

下記の手順で操作します。



……項目選択後の「リターン」キー

削除するファイルが格納されているパスを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

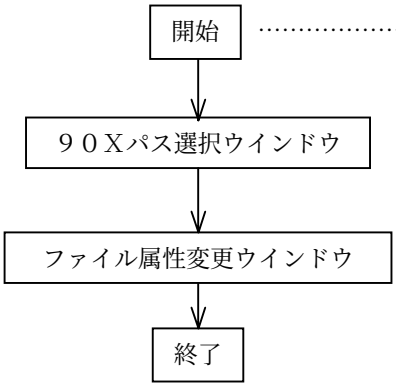
削除するファイルを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

転送が正常に終了すると表示されます。
どれかキーを押すと、このメッセージは終了します。

削除が正常に終了しました。

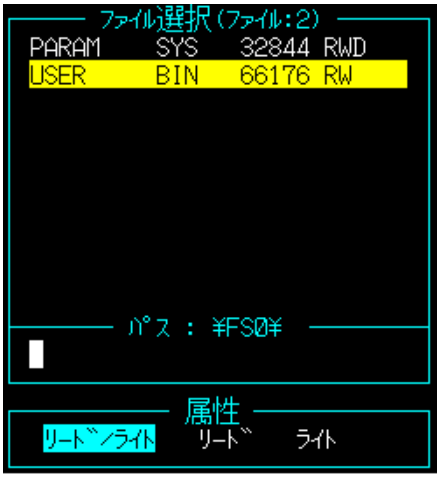
2.6.6 ［ファイル操作］＞ **［ファイル属性変更］** ウインドウ

９０Ｘのファイルの属性を変更します。下記の手順で操作します。



ディレクトリを表示する９０Ｘのパスを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

［ファイル属性変更ウインドウ］の表示形式です。



選択されているファイルが反転表示されます。

選択されているファイル属性が反転表示されます。

［操作方法］

上下の矢印キー（↑↓）で変更するファイル名を選択します。
左右の矢印キー（←→）でファイル属性を選択します。
「リターン」キーで、ファイル属性を変更します。
「ＥＳＣ」キーで、ファイル属性を変更しないで終了します。

☆ USER　BIN　66176　RW

- RW → 属性
- 66176 → ファイル容量（バイトサイズ）
- BIN → 拡張子（３文字）
- USER → ファイル名（８文字）

☆属性

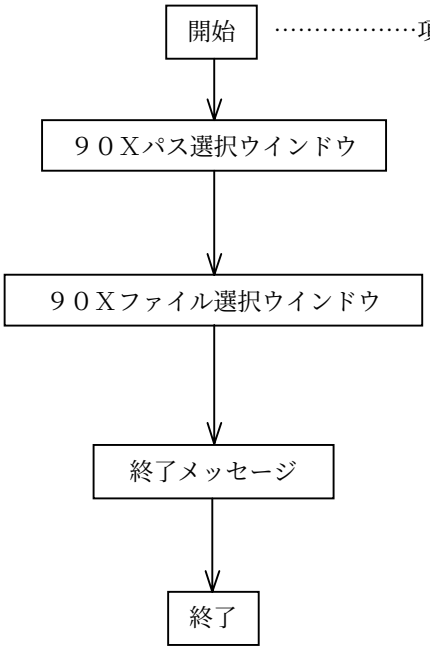
RW ・・・・・ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ属性　　RWD ・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
R ・・・・・・ﾘｰﾄﾞｵﾝﾘｰ属性　　RD ・・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
W ・・・・・・ﾗｲﾄｵﾝﾘｰ属性　　WD ・・・・・・ ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性

［注］Ｄ（ランダム）属性は変更できません。

2.6.7 ［ファイル操作］＞ **［即実行指定］** ウインドウ

９０Ｘの電源投入時に即実行を行うユーザープログラムのファイル名を指定します。

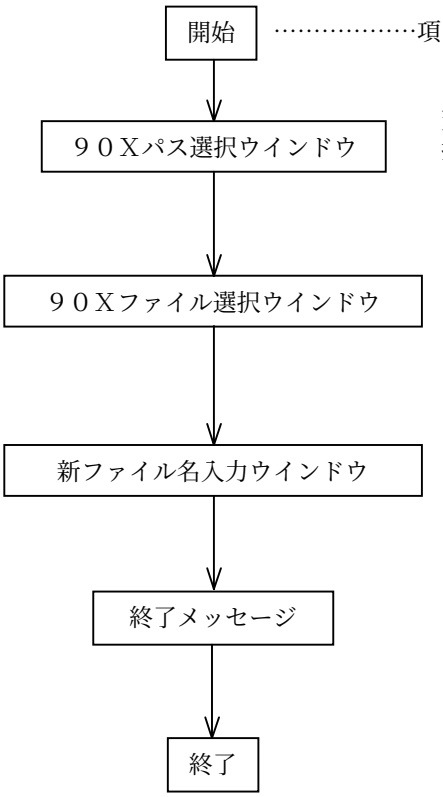
下記の手順で操作します。



2.6.8 ［ファイル操作］＞ **［ファイル名変更］** ウインドウ

９０Ｘのファイル名を変更します。

下記の手順で操作します。



……項目選択後の「リターン」キー

変更するファイルが格納されているパスを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

変更するファイルを選択します。
操作手順は『**2.1.2　９０Ｘパス選択ウインドウ，９０Ｘファイル選択ウインドウ**』を参照してください。

変更前のファイル名が表示されます。

aaaaaaaa.aaa

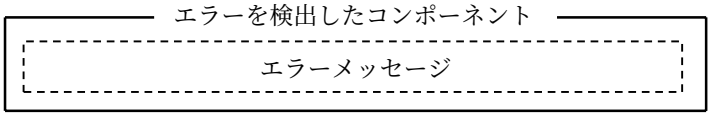
新しく付けるファイル名を入力します。

変更が正常に終了すると表示されます。
どれかキーを押すと、このメッセージは終了します。

ファイル名変更が正常に終了しました。

３．エラーメッセージ

エラーメッセージは下記の形式で表示されます。



Ｃ－ＮＥＴ

Ｃ－ＮＥＴ使用時にエラーが発生した場合表示します。
ウインドウ内にエラーの内容を表示します。

インターフェースに異常が発生しました。
インターフェースに未知の異常が発生しました。

Ｃ－ＮＥＴ　ＰＣ９８インターフェースボードが異常な状態です。
ホスト計算機を再立ちあげしてください。

ノードが存在しません。

ターゲット９０Ｘのノードが存在しません。

ノード番号がすでに存在しています。

自局ノード（マイノード）番号がすでにＣ－ＮＥＴ上にあります。
自局のノード番号の設定を変更してください。

ラインがビジー状態です。

Ｃ－ＮＥＴのラインがビジー状態です。

送信先からアクノリッジが返ってきません。

送信先の受信準備ができていないか、ノードが存在しません。

ＲＳ－２３２Ｃエラー

ＲＳ－２３２Ｃ使用時にエラーが発生した場合表示します。
ウインドウ内にエラーの内容を表示します。

初期化ができません。

ＲＳ－２３２Ｃの初期化に失敗した場合表示します。

Ｃ－ＬＩＮＫ

Ｃ－ＬＩＮＫ使用時にエラーが発生した場合表示します。
ウインドウ内にエラーの内容を表示します。

インターフェースに異常が発生しました。

Ｃ－ＬＩＮＫが異常な状態です。

ノードが存在しません。

ターゲット９０Ｘのノードが存在しません。

ラインがビジー状態です。

Ｃ－ＬＩＮＫのラインがビジー状態です。

Ｐ－ＬＩＮＫ

Ｐ－ＬＩＮＫ使用時にエラーが発生した場合表示します。
ウインドウ内にエラーの内容を表示します。

設定が異常です。

Ｐ－ＬＩＮＫの設定がおかしい状態です。

接続されていません。

Ｐ－ＬＩＮＫが接続されていない状態です。

送信先からアクノリッジが返ってきません。

送信先の受信準備ができていない状態です。

インターフェースに異常が発生しました。
インターフェースに未知の異常が発生しました。

Ｐ－ＬＩＮＫが異常な状態です。

アップロードエラー
ダウンロードエラー

システム構築およびＣＯＰＹコマンドで、ホストから９０Ｘ（ダウンロード）または９０Ｘからホスト（アップロード）の、データ転送時に発生したエラーを表示します。

タイムアウトエラーが発生しました。

受信待機中に受信が一定時間ありません。

ファイルの長さが異常です。

ファイルの長さがファイルヘッダー部（１６バイト）以下になっています。
９０Ｘ用のファイル構造については「９０Ｘ　操作説明書］を参照してください。

ファイル読み込みエラーが発生しました。

ファイルアクセスが拒否された場合表示されます。

ファイル書き込みエラーが発生しました。

☆ディスク空き容量がない
☆アクセスが拒否された

リトライタイムアウトエラーが発生しました。

９０Ｘ側が受信準備できていません。

コマンドエラー

システムコマンド発行時に発生したエラーを表示します。

異常終了しました。

システムコマンド発行時にコマンドが受け付けられません。

送り側のファイルを指定してください。

ファイル操作のコピー時に送り側のファイル名を指定しないでコピーを開始しました。
送り側のファイル名は省略できません。

タイムアウトエラーが発生しました。

システムコマンドの応答待ち状態でコマンド応答が一定時間ありません。

ホスト間のコピーはできません。

ファイル操作のコピー時に受け側と送り側が共に「ホスト」の場合表示します。
ホスト間のコピーはサポートしていません。

リトライタイムアウトエラーが発生しました。

システムコマンド発行時に９０Ｘ側が受信準備できていません。

エラーが発生したので処理を中断します。

ディレクトリコピー中、何らかのエラーが発生したのでディレクトリコピーを中止しました。

ファイルエラー

ホスト計算機のディスクアクセス時にエラーが発生した場合表示します。
ウィンドウ内にエラーの内容を表示し、下段にエラーの発生したファイル名を表示します。

環境ファイルが見つかりません。環境をデフォルトにセットします。

カレントディレクトリに環境ファイルが見つからない場合表示します。

環境ファイルオープンエラーが発生しました。環境をデフォルトにセットします。

☆アクセスが拒否された

環境ファイル読み込みエラーが発生しました。環境をデフォルトにセットします。

☆アクセスが拒否された

環境ファイル書き込みエラーが発生しました。保存を中止します。

☆ディスク空き容量がない
☆アクセスが拒否された

ファイルオープンエラーが発生しました。

☆ファイル名またはディレクトリ名がない
☆アクセスが拒否された

ファイル書き込みエラーが発生しました。

☆ディスク空き容量がない
☆アクセスが拒否された

ファイル読み込みエラーが発生しました。

☆アクセスが拒否された

第２編
ＰＣ／ＡＴ用

１．概　要

本プログラム（以下ＣＴＬ９０１Ｅと呼ぶ）は、９０Ｘとホスト計算機の通信を行うユーティリティで、以下の機能を持っています。

☆システム構築（インストール・バージョンアップ）
☆ファイル操作
☆ターミナル

９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４シリーズの場合は、本プログラムを使用してシステム構築のインストールはできません。

動作環境

ＩＢＭ　ＰＣ／ＡＴ，ＰＣ／ＡＴ互換機
ＭＳ－ＤＯＳ　３．１以上
ＣＴＬ９０１ＥはＡＮＳＩ　ＥＳＣシーケンスを使用しています。
したがってＣＯＮＦＩＧ．ＳＹＳで、デバイスドライバＡＮＳＩ．ＳＹＳをあらかじめ組み込んでおく必要があります。

＜例＞　**DEVICE = ANSI.SYS**

-PC/AT-

通信機器

「ＲＳ－２３２Ｃ」，「Ｃ－ＬＩＮＫ」，「Ｃ－ＮＥＴ」，「パラレル・リンク」の４つの通信系統が用意されています。
通信速度はＲＳ－２３２Ｃを１とした場合Ｃ－ＮＥＴが６０～８０倍(4Mbps)，Ｃ－ＬＩＮＫは、パソコンの性能にも依存しますが５～８倍(50Kbps～100Kbps)、パラレル・リンクもパソコンの性能にも依存しますが２５～４０倍になります。

☆ＲＳ－２３２Ｃ，Ｃ－ＬＩＮＫ
ＰＣ／ＡＴの背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタと、９０Ｘの背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタ（ＣＨ０またはＣＨ１）をＲＳ－２３２Ｃシリアル（クロス）ケーブルで接続してください。（ＰＣ／ＡＴ用のＲＳ－２３２Ｃシリアルケーブルはオプションです。）

☆Ｃ－ＮＥＴ
PC/AT C-NET I/Fボードのコネクタと、９０１，９０２背面Ｃ－ＮＥＴコネクタをC-NET I/Fケーブルで接続してください。（PC/AT C-NET I/Fボードと、C-NET I/Fケーブルはオプションです。）

☆パラレル・リンク
ＰＣ／ＡＴ，ＰＣ／ＡＴ互換機の背面のプリンタ用コネクタと、９０２背面のパラレル・リンクポートをパラレル・リンクケーブルで接続してください。（パラレル・リンクケーブルはオプションです。）

［参考］
各通信機器の通信速度例として、ホストのハードディスク上のファイルをＣＳＣ９０２ａのＦＳ０にファイルコピーした場合は以下のようになります。

ホスト　　DELL　Optiplex GXL 5133（Pentium™プロセッサ，133MHz）
エンハンスドＩＤＥハードディスク、セカンドキャッシュ　256Kbyte

９０２　　ＦＳ０は、フラッシュ・ファイル・カード

ファイル　　１００Ｋｂｙｔｅ

通信機器	時間
ＲＳ－２３２Ｃ(9600bps)	約　１２５秒
Ｃ－ＬＩＮＫ	約　　１０秒
Ｃ－ＮＥＴ	約　　１秒
パラレル・リンク	約　　２秒

時間は、ホストのディスクアクセスを含みます。

注意

・本プログラムでは、パラレル・リンクのことをＰ－ＬＩＮＫと呼んでいます。
・９０３シリーズをお使いの場合は、通信機器が「ＲＳ－２３２Ｃ」のみとなります。

ディスクの内容

添付されているフロッピーディスクは、機種により以下のように異なります。

●９０１シリーズの場合

◎システム＃１フロッピーディスク

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

●９０２シリーズの場合

◎９０２システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

●９０２シリーズの場合

◎９０２システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

●９０４シリーズの場合

◎９０４システムソフトＦＤ＃２

\UTIL\J\CTL901.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム
\UTIL\J\CTL901.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ９８用ホスト通信プログラム環境ファイル
\UTIL\E\CTL901E.EXE ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム
\UTIL\E\CTL901E.ENV ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ＰＣ／ＡＴ用ホスト通信プログラム環境ファイル

ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドを使用して、ハードディスクにコピーして御使用ください。
オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

-PC/AT-

起　動

ＣＴＬ９０１Ｅを起動するのは簡単です。
ＣＴＬ９０１Ｅのディレクトリに移って、ＤＯＳのコマンドラインから

ＣＴＬ９０１Ｅ ・ と入力してください。

ＣＴＬ９０１Ｅが起動するとメインメニューウインドウが表示されます。
このメニューから各処理に進みます。

```
CTL901E Ver. x.xx
Copyright (c) 1992 - 99 FAST Corporation. ALL rights reserved

--- Main Menu ---
1 : File
2 : Terminal
3 : System Generation
4 : Environment
5 : Quit

Enter the Menu No to use :
```

注意

起動時に環境ファイル（ｶﾚﾝﾄﾃﾞｨﾚｸﾄﾘのCTL901E.ENV）の内容によって、ＣＴＬ９０１Ｅの動作環境（通信機器の種類等）を設定します。
環境ファイルが見つからない場合は下記メッセージを表示し動作環境をデフォルトに設定します。

```
Could not find file : CTL901E.ENV
Press any key to continue
```

ＣＴＬ９０１Ｅでファイル操作、ターミナル、インストールを行う時は、９０Ｘ本体は、「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

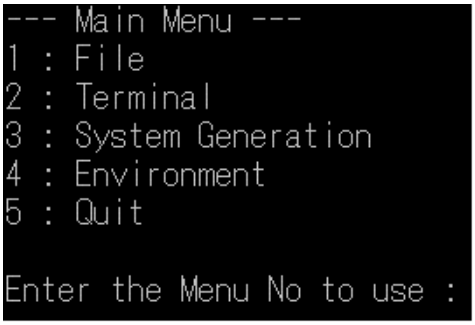
日本語モード

英語モード

２．操作の手順

2.1　［メインメニュー］

ＣＴＬ９０１Ｅが起動すると、最初に表示されます。



[操作方法]
　選択する項目の番号を入力します。

☆File――――→ファイル操作メニューへ
　ユーザープログラムのダウンロード等、各種ファイル操作を行います。

☆Terminal――――→ターミナルへ
　９０Ｘのターミナルになります。

☆System Generation――――→システム構築メニューへ
　システムのインストール
　バージョンアップ　を行います。

☆Environment――――→環境設定へ
　ＣＴＬ９０１Ｅの動作環境を設定します。

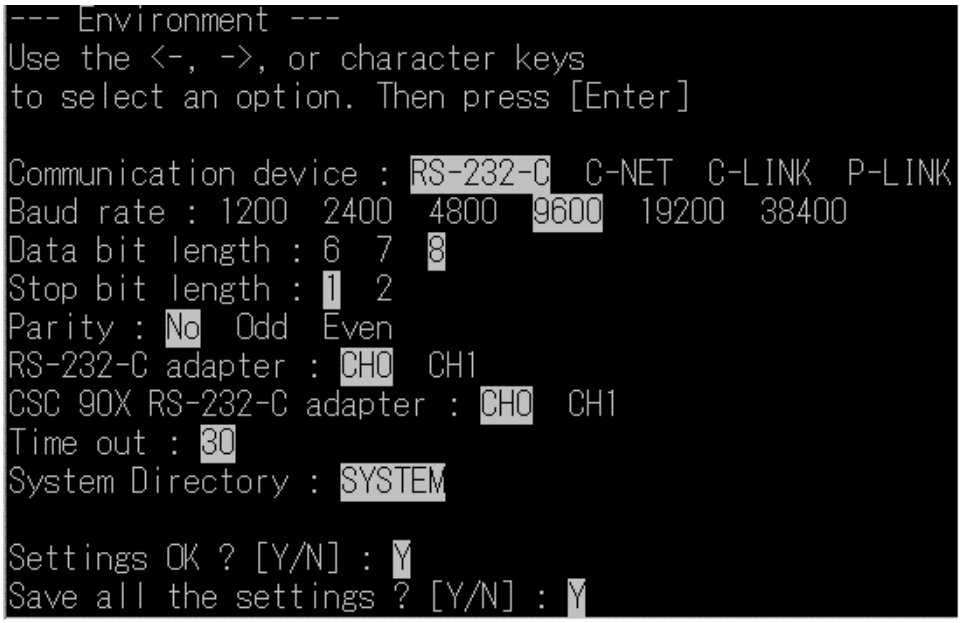
☆Quit
　ＣＴＬ９０１Ｅを終了しＤＯＳに戻ります。

最初に **Environment** を選択して、ＣＴＬ９０１Ｅの動作環境を設定します。

2.2 ［環境設定］メニュー

ＣＴＬ９０１Ｅの動作環境を設定し、環境ファイル（ＣＴＬ９０１Ｅ．ＥＮＶ）を作成します。

ＲＳ－２３２Ｃ使用時の環境設定の表示例（デフォルト値）



Ｃ－ＮＥＴ使用時の環境設定の表示例（デフォルト値）

```
--- Environment ---
Use the <-, ->, or character keys
to select an option. Then press [Enter]

Communication device : RS-232-C  C-NET  C-LINK  P-LINK
My node : 0
Target node : 8
C-NET I/O address : 330  338  340  348
C-NET Ram address : C8  CC  D0  D4  D8  DC  E0  E4
C-NET Interrupt level : 3  4  5  7  9  10  11  12  14  15
Time out : 30
System Directory : SYSTEM

Settings OK ? [Y/N] : Y
Save all the settings ? [Y/N] : Y
```

Ｃ－ＬＩＮＫ使用時の環境設定の表示例（デフォルト値）

```
--- Environment ---
Use the <-, ->, or character keys
to select an option. Then press [Enter]

Communication device : RS-232-C  C-NET  C-LINK  P-LINK
My node : 0
Target node : 8
RS-232-C adapter : CH0  CH1
CSC 90X RS-232-C adapter : CH0  CH1
Time out : 30
System Directory : SYSTEM

Settings OK ? [Y/N] : Y
Save all the settings ? [Y/N] : Y
```

Ｐ－ＬＩＮＫ使用時の環境設定の表示例（デフォルト値）

[操作方法]

設定する項目が１行ずつ表示され、Ｅｎｔｅｒキーで次の項目の設定に進みます。
項目の右側にパラメータ列があるものは、左右の矢印キー（←→）で選択します。
ないものは、キー入力します。

［注］Ver.3.20以前のものでは、System Directory : には何も表示されず、カレントディレクトリとなります。

☆Communication device

９０Ｘと通信するデバイスを切り替えます。

→９０Ｘ本体の通信機器と**必ず一致させてください！！**

[ＲＳ－２３２Ｃ使用時の設定項目]

☆Baud rate
ＲＳ－２３２Ｃのボーレートを設定します。

☆Data bit length
ＲＳ－２３２Ｃのデータ長を設定します。

☆Stop bit length
ＲＳ－２３２Ｃのストップビット長を設定します。

☆Parity
ＲＳ－２３２Ｃのパリティを設定します。

☆RS-232-C adapter
ホスト側のＲＳ－２３２Ｃのチャネルを設定します。

☆CSC 90X RS-232-C adapter
９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを設定します。

［注］９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、Data bit lengthを８に設定してください。

[Ｃ－ＮＥＴ使用時の設定項目]

☆My node
ホスト計算機自身のＣ－ＮＥＴノード番号です。通常は“０”で使用してください。

☆Target node
ターゲット９０Ｘのノード番号です。通常は“８”で使用してください。

☆C-NET I/O address
インターフェースカードのＩ／Ｏアドレスを設定します。

☆C-NET Ram address
インターフェースカードのバッファメモリアドレスを設定します。

Ｃ８・・・・・Ｃ８０００ｈ～ＣＢＦＦＦｈ	Ｄ８ ・・・・ Ｄ８０００ｈ～ＤＢＦＦＦｈ
ＣＣ・・・・・ＣＣ０００ｈ～ＣＦＦＦＦｈ	ＤＣ ・・・・ ＤＣ０００ｈ～ＤＦＦＦＦｈ
Ｄ０・・・・・Ｄ００００ｈ～Ｄ３ＦＦＦｈ	Ｅ０ ・・・・ Ｅ００００ｈ～Ｅ３ＦＦＦｈ
Ｄ４・・・・・Ｄ４０００ｈ～Ｄ７ＦＦＦｈ	Ｅ４ ・・・・ Ｅ４０００ｈ～Ｅ７ＦＦＦｈ

☆C-NET Interrupt level
インターフェースカードの割り込みレベルを設定します。

-PC/AT-

［Ｃ－ＬＩＮＫ使用時の設定項目］

☆My node

ホスト計算機自身のＣ－ＬＩＮＫノード番号です。通常は“０”で使用してください。

☆Target node

ターゲット９０Ｘのノード番号です。通常は“８”で使用してください。

☆RS-232-C adapter

ホスト側のＲＳ－２３２Ｃのチャネルを設定します。

☆CSC 90X RS-232-C adapter

９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを設定します。

［注］９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、RS-232C使用時の設定項目のData bit lengthを８に設定してください。

［Ｐ－ＬＩＮＫ使用時の設定項目］

☆Parallel Port

ホスト側のパラレル・ポートのチャネル番号を設定します。

３７８ｈ……３７８ｈ～３７Ａｈ
２７８ｈ……２７８ｈ～２７Ａｈ
３ＢＣｈ……３ＢＣｈ～３ＢＥｈ

[ＲＳ－２３２Ｃ，Ｃ－ＮＥＴ，Ｃ－ＬＩＮＫ，Ｐ－ＬＩＮＫに共通な設定項目]

☆Time out

通信中にリトライ可能なエラーが発生した場合に、リトライを繰り返す時間を秒単位で設定します。
省略時は３０秒となります。

☆System Directory

このディレクトリはシステム構築時のサーチパスとして使用されます。
省略時はカレントディレクトリになります。
９０Ｘシステムプログラムがはいっているディレクトリを入力します。

☆Settings OK ? [Y/N]

設定が良ければ“Ｙ”を入力しＥｎｔｅｒキーを押します。
設定を変更する場合は“Ｎ”を入力しＥｎｔｅｒキーを押します。

☆Save all the settings ? [Y/N]

“Ｙ”で設定内容を環境ファイル（ＣＴＬ９０１Ｅ．ＥＮＶ）に保存します。
“Ｎ”では保存はされません。今回起動時のみ有効となります。

注意

「９０Ｘ　操作説明書」に記載されている「システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定」で

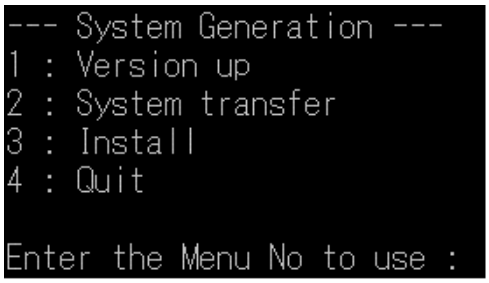
エコーバック　　ＯＮ
ターミネート　　ＣＲ／ＬＦ

に必ず設定してください。

（９０Ｘの操作手順）
システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

2.3 ［システム構築］ メニュー

９０Ｘシステムプログラムの
インストール および **バージョンアップ**
を行います。
９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４シリーズの場合インストールは、使用できませんので御注意ください。



［操作方法］
選択する項目の番号を入力します。
４キーまたはＥｓｃキーでこのメニューは終了します。

☆Version up

９０Ｘシステムプログラムをバージョンアップする時に使用します。
ホスト計算機のディスクから、９０Ｘシステムプログラムを読み込み、ファイル装置に書き込みます。

```
<<< Version up >>>
Press [Enter] when ready, [Esc] to quit
```

Ｅｎｔｅｒキーで転送を開始します。ＥＳＣキーでシステム構築メニューに戻ります。

☆System transfer

ＲＳ２３２Ｃを使用してインストールをする時に使用します。
９０１システムプログラム(901.SYS)を、ホスト計算機のディスクから読み込み、９０１のメインメモリに転送します。

```
<<< System transfer >>>
Press [Enter] when ready. [Esc] to quit
```

Ｅｎｔｅｒキーで転送を開始します。ＥＳＣキーでシステム構築メニューに戻ります。
９０２シリーズおよび９０３シリーズの場合は、使用できませんのでご注意ください。

☆Install

Ｃ－ＮＥＴ,Ｃ－ＬＩＮＫを使用して、９０１システムのインストールをする時に使用します。
まず、９０１システムプログラム(901.SYS)を、ホスト計算機のディスクから読み込み、
９０１のメインメモリに転送します。
続けて、９０１システムプログラム＆ローダ(901.SYS､901.BOT)を９０１のファイル装置に書き込みます。

```
<<< Install >>>
Press [Enter] when ready. [Esc] to quit
```

Ｅｎｔｅｒキーで転送を開始します。ＥＳＣキーでシステム構築メニューに戻ります。
９０２シリーズおよび９０３シリーズの場合は、使用できませんのでご注意ください。

注意

［注１］システムプログラムは、**環境設定**の**System Directory**で設定したディレクトリ下になければなりません。

［注２］**Version up**を実行する時、９０Ｘ本体は、「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

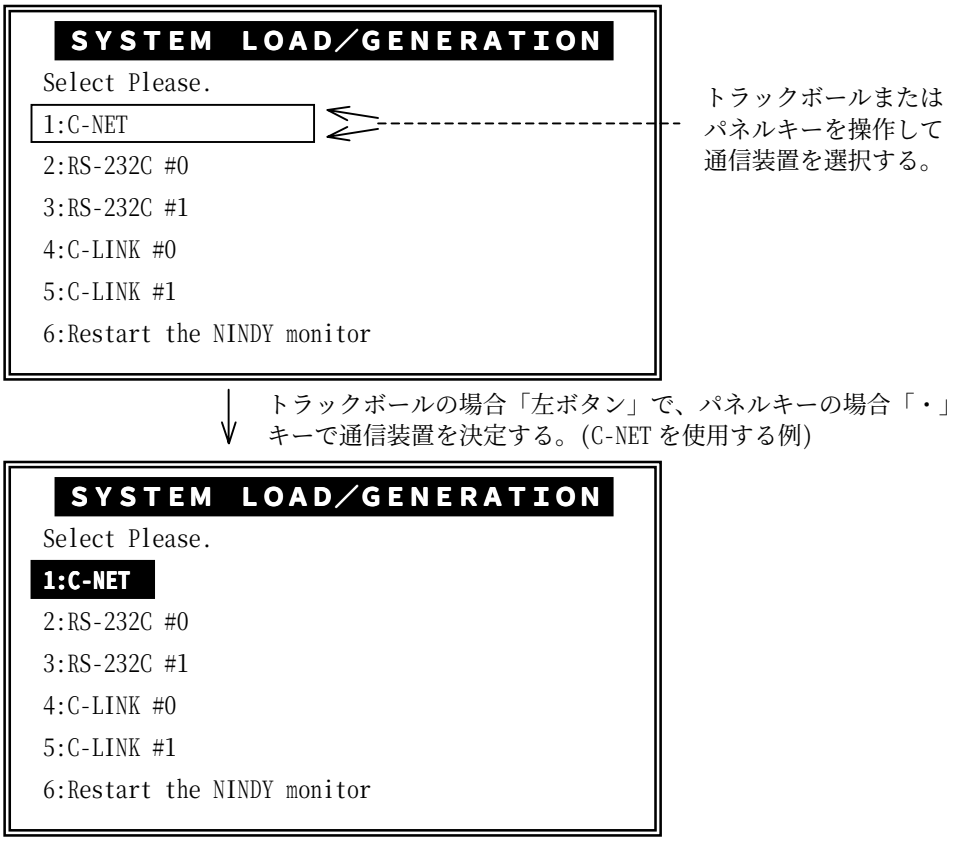
日本語モード

英語モード

［注３］**System transfer**および**Install**を実行する時、９０１本体は、「システムのインストール要求」画面になっていなければなりません。

＜９０１本体の操作＞

転送を始める前に、下記の操作で通信装置を決定しておいてください。



［注］９０１シリーズの機種により表示される内容が異なります。御留意ください。

［注４］**ＲＳ２３２Ｃ**を使用してシステムの**インストール**を行う場合の手順

①まず**System transfer**を行います。（［注３］で通信装置でＲＳ２３２Ｃを選択）

②「９０Ｘ　操作説明書」に記載されているシステムメニュー操作で、９０１のシステムコマンドの通信装置としてＲＳ２３２Ｃを選択します。

（９０１の操作手順）

システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

システムパラメーター入出力設定－ＲＳ２３２Ｃパラメータ設定

☆セーブは絶対に行わないでください。

③９０１を「ホームメニュー」画面にします。

④最後に**Version up**を行います。

［注５］９０１本体のファイル装置

本体前面のファイル装置実装スロットに、ファイル装置が実装されている事を確認してください。

なお、ＳＲＡＭカードファイル装置の場合はＳＲＡＭカード（MF32MO-M6DAP01三菱製）が、ＰＣカードファイル装置の場合はＰＣカードが装着されている事を確認してください。

［注６］リトライタイムについて

システムインストール時にはリトライタイムを最低５秒にしてください。

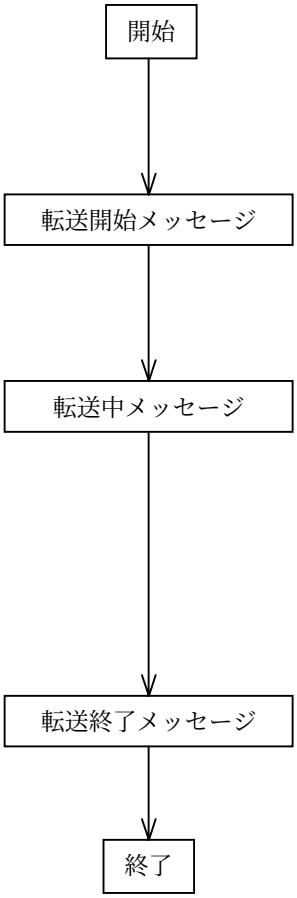
１０秒以下の場合、転送が正常にいかない場合があります。

［注７］システムの転送およびファイル化の作業が終了後、**必ず９０１本体をリセット**してください。

ファイル装置にインストールしたシステムが起動します。

-PC/AT-

転送時の確認メッセージ



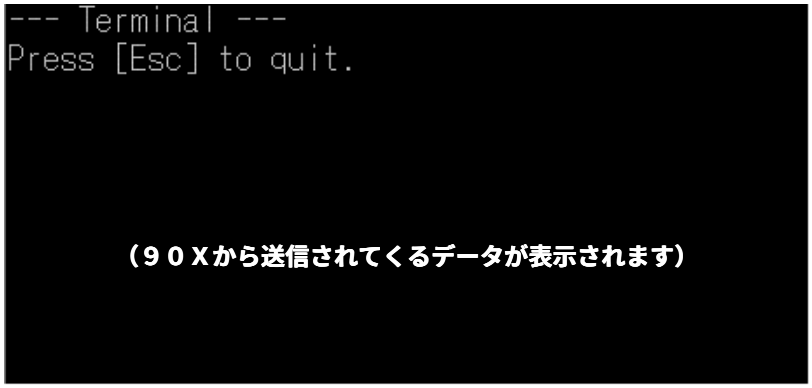
Press [Enter] when ready, [Esc] to quit
Ｅｎｔｅｒキーで転送を開始します。

転送を開始すると表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位に ＊ 表示します。
またインジケータのに表示される ＊ も１ブロック転送ごとに点滅します。
　Transferring... ***　（３０パーセント終了時)
この表示は１個のファイル転送毎に行われます。

転送が正常に終了すると表示されます。
　XXX....XXXX complete
　　XXX.XX には Version up
　　System transfer
　　Install
のいずれかが表示されます。

2.4 ［ターミナル］メニュー

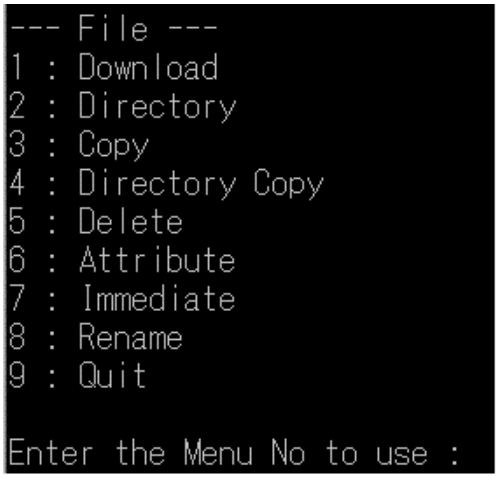
ホスト計算機を、９０Ｘのターミナルにします。



ターミナルは［ＥＳＣ］キーで終了します。

2.5 ［ファイル操作］ メニュー

９０Ｘの各種ファイル操作を行います。



［操作方法］

選択する項目の番号を入力します。
８キーまたはＥｓｃキーでこのメニューは終了します。

☆Download

ユーザープログラムを９０Ｘのメインメモリの実行エリアに転送します。
（ユーザープログラム以外の転送は、Ｃｏｐｙ機能で行ってください。）

☆Directory

９０Ｘファイル装置のディレクトリ情報を表示します。

☆Copy

ホスト計算機－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でコピーを行います。

☆Directory Copy

ホスト計算機－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でのディレクトリ単位のコピーを行います。

☆Delete

９０Ｘのファイルを削除します。

☆Attribute

９０Ｘのファイル属性を変更します。

☆Immediate

９０Ｘの電源投入時に、即実行するユーザープログラムを設定します。

☆Rename

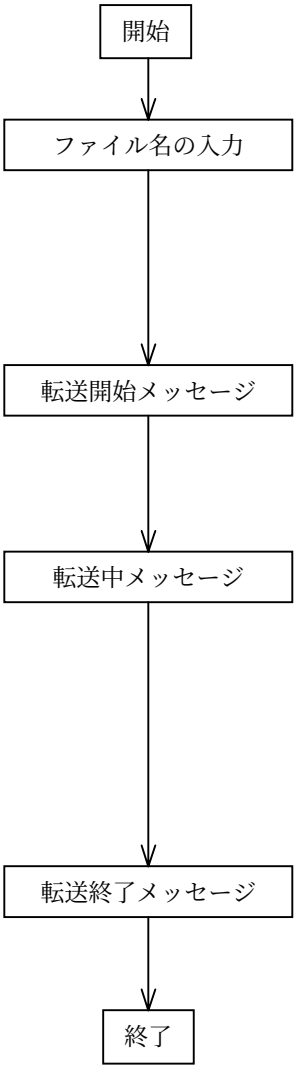
９０Ｘのファイル名を変更します。

☆Quit

ファイル操作メニューを終了し、メインメニューに戻ります。

2.5.1 ［ファイル操作］＞ [Ｄｏｗｎｌｏａｄ] メニュー

下記の手順で操作します。



File:
ダウンロードするユーザプログラムのファイル名を
入力します。

Press [Enter] when ready, [Esc] to quit
Ｅｎｔｅｒキーで転送を開始します。
Ｅｓｃキーでファイル操作メニューに戻ります。

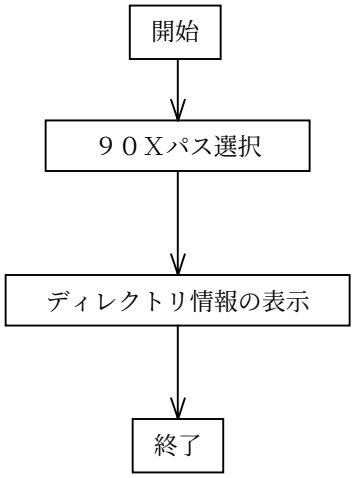
転送を開始すると表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位に ＊ 表示します。
またインジケータに表示される ＊ も１ブロック転送ごと
に点滅します。
Transferring... *** （３０パーセント終了時)

Download complete
転送が正常に終了すると表示されます。

［注］ダウンロードされるファイルは全て９０Ｘ上のフォーマットになっている必要があります。
９０１用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901.EXE」，
９０２，９０３，９０４用実行ファイルおよびデータファイルを９０Ｘ上のフォーマットにす
る時は、ユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

2.5.2 ［ファイル操作］＞ **［Ｄｉｒｅｃｔｏｒｙ］** メニュー

９０Ｘのファイルを表示します。下記の手順で操作します。



CSC 901 Directory : **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

ディレクトリを表示する９０Ｘのパスを左右の矢印（←→）キーで選択して、Ｅｎｔｅｒキーを押します。

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

［ディレクトリ情報］の表示形式です。どれかキーを押すことでファイル操作メニューに戻ります。

```
     2 Files

PARAM    SYS   32844 RWD
USER     BIN   66176 RW

8388608 bytes total space
3440640 bytes free

Press any key to return to menu
```

(ファイル装置の総容量が表示されます)
(ファイル容量の空き容量が表示されます)

☆ USER　BIN　66176　RW　I

- I：即実行指定
- RW：属性
- 66176：ファイル容量（バイトサイズ）
- BIN：拡張子（３文字）
- USER：ファイル名（８文字）

☆属性

RW ・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ属性
R ・・・・・ ﾘｰﾄﾞｵﾝﾘｰ属性
W ・・・・・ ﾗｲﾄｵﾝﾘｰ属性
RWD・・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
RD・・・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
WD・・・・・・・ ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性

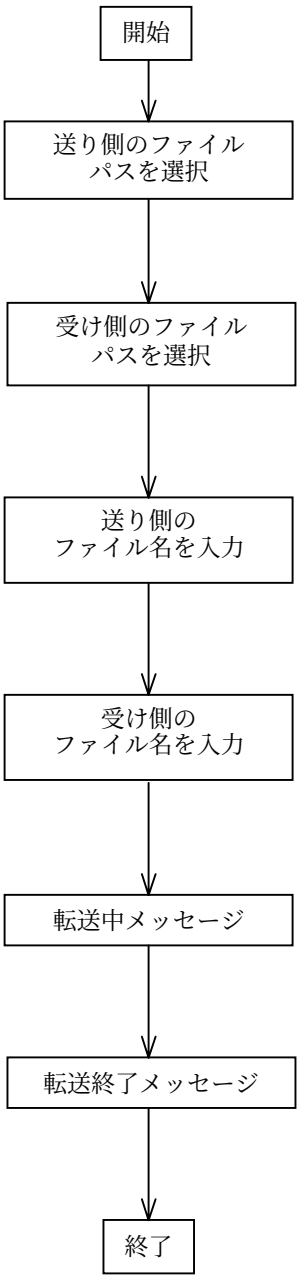
☆即実行指定

Ｉ ・・・・・ 即実行指定されています。

2.5.3 ［ファイル操作］＞［Ｃｏｐｙ］メニュー

ホスト－９０Ｘ間および、９０Ｘ内部でのファイルコピーを行います。

下記の手順で操作します。



Source directory : **HOST** FS0 FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。
HOST が指定された場合は送り側がホスト計算機となります。
HOST 以外は９０Ｘとなります。

Destination directory : HOST **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。
HOST が指定された場合は受け側がホスト計算機となります。
HOST 以外は９０Ｘとなります。

Source file :

送り側のファイルを入力します。

Destination file :

受け側のファイルを入力します。

転送を開始すると表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位に ＊ 表示します。
またインジケータに表示される ＊ も１ブロック転送ごとに
点滅します。

```
Transferring... ***
```

Copy complete
転送が正常に終了すると表示されます。

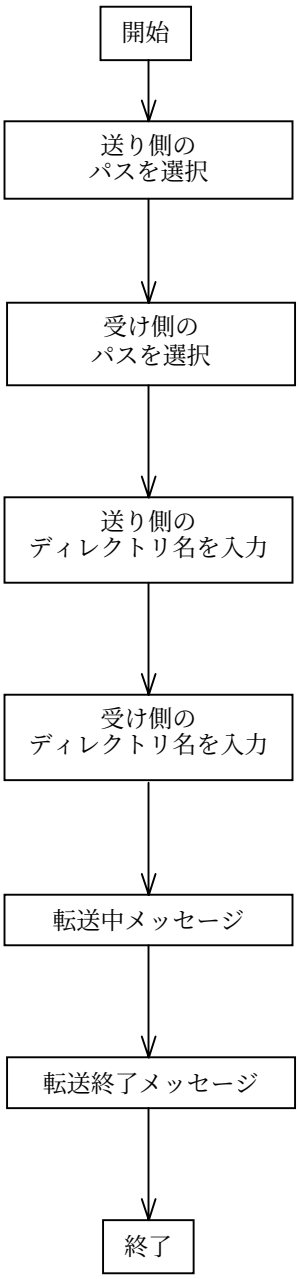
［注１］ホストから９０Ｘへコピーされるファイルは全て９０Ｘ上のフォーマットになっている必要があります。９０１用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901E.EXE」，９０２，９０３，９０４用実行ファイルおよびデータファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時は、ユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

［注２］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

2.5.4 ［ファイル操作］＞ [Ｄｉｒｅｃｔｏｒｙ Ｃｏｐｙ] メニュー

ホスト－９０X間および、９０X内部でのディレクトリ単位のコピーを行います。

下記の手順で操作します。



Source path : **HOST** FS0 FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。
HOST が指定された場合は送り側がホスト計算機となります。
HOST 以外は９０Ｘとなります。

Destination path : HOST **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。
HOST が指定された場合は受け側がホスト計算機となります。
HOST 以外は９０Ｘとなります。

Source directory :

送り側がホストの場合のディレクトリを入力します。
（９０X側の時は省略しています）
ディレクトリ名の最後に＼（バックスラッシュ）を付けてください。
またはワイルドカードを使用してファイル名を指定できます。

Destination file :

受け側がホストの場合のディレクトリを入力します。
（９０X側の時は省略しています）
ディレクトリ名の最後に＼（バックスラッシュ）を付けてください。

転送を開始すると表示されます。
転送の進み具合を１０パーセント単位に ＊ 表示します。
またインジケータに表示される ＊ も１ブロック転送ごとに点滅します。

```
    Transferring... ***
```

受け側のディレクトリ内にすでにファイルが存在している場合、
上書きするかどうか聞いてきますのでメッセージに従ってください。

Copy complete
転送が正常に終了すると表示されます。

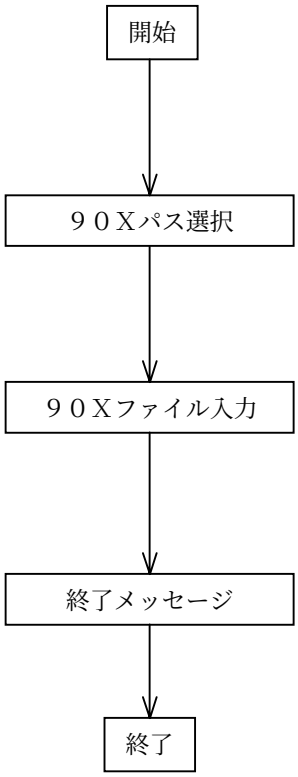
［注１］ホストから９０Xへディレクトリコピーされるファイルは全て９０X上のフォーマットになっている必要があります。９０１用実行ファイルを９０X上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901E.EXE」，９０２，９０３，９０４用実行ファイルおよびデータファイルを９０X上のフォーマットにする時は、ユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。

［注２］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

2.5.5 ［ファイル操作］＞ [Ｄｅｌｅｔｅ] メニュー

９０Ｘのファイルを削除します。

下記の手順で操作します。



CSC 901 Directory : FS0 FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

削除するファイルが格納されているパスを左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。

File :
削除するファイル名を入力します。

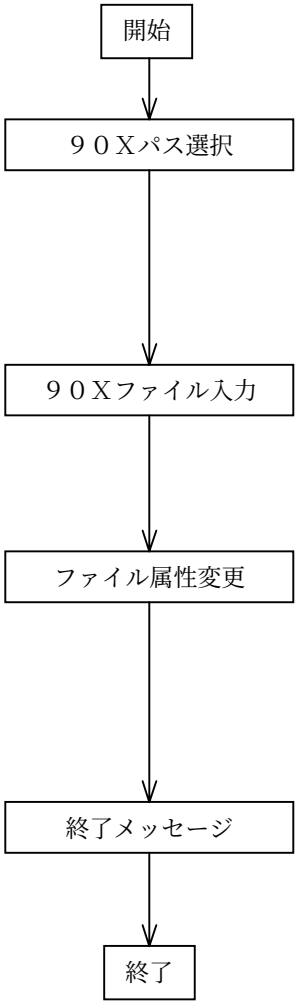
Delete Complete
削除が正常に終了すると表示されます。

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

2.5.6 ［ファイル操作］＞ **［Ａｔｔｒｉｂｕｔｅ］** メニュー

９０Ｘのファイルの属性を変更します。

下記の手順で操作します。



CSC 901 Directory : **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

属性変更するファイルが格納されているパスを左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。

File :
属性変更するファイル名を入力します。

New attribute : **RW** R W

左右の矢印（←→）キーでファイル属性を選択し、
Ｅｎｔｅｒキーで変更します。
ＥＳＣキーで変更しないで終了します。

Attribute complete
属性変更が正常に終了すると表示されます。

☆属性

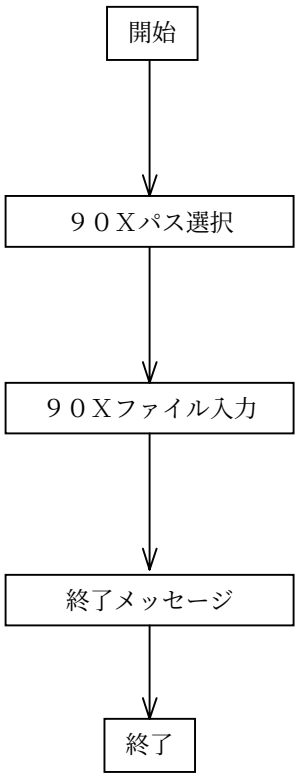
RW ・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ属性
R ・・・・・ ﾘｰﾄﾞｵﾝﾘｰ属性
W ・・・・・ ﾗｲﾄｵﾝﾘｰ属性

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

2.5.7 ［ファイル操作］＞ [Immediate] メニュー

９０Ｘの電源投入時に即実行を行うユーザープログラムのファイル名を指定します。

下記の手順で操作します。



CSC 901 Directory : **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

即実行するファイルが格納されているパスを左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。

File :
即実行するファイル名を入力します。

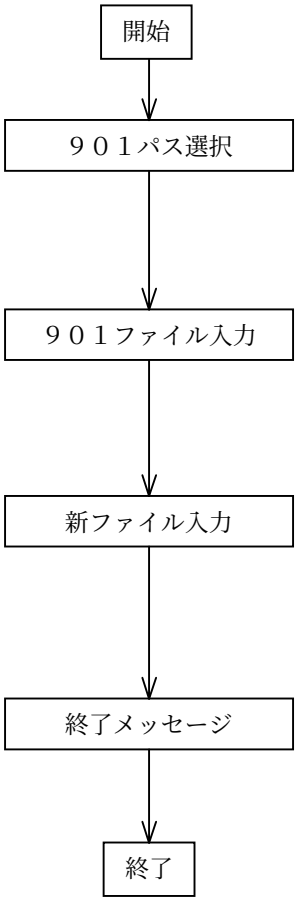
Immediate Complete
即実行の設定が正常に終了すると表示されます。

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

2.5.8 ［ファイル操作］＞［Ｒｅｎａｍｅ］メニュー

９０Ｘのファイル名を変更します。

下記の手順で操作します。



CSC 901 Directory : **FS0** FS1 FS2 FS3 STORAGE EXECUTOR

変更するファイルが格納されているパスを左右の矢印（←→）キーで選択しＥｎｔｅｒキーを押します。

File :
変更するファイル名を入力します。

New File :
新しく付けるファイル名を入力します。

Rename complete
変更が正常に終了すると表示されます。

［注］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

３．エラーメッセージ

ＲＳ－２３２Ｃエラー

Cannot initialize the RS-232-C port
ＲＳ－２３２Ｃの初期化に失敗しました。

Ｃ－ＮＥＴエラー

C-NET error : NO_CONNECT(-2)
まだ接続されていません。

C-NET error : ALREADY_EXIST(-3)
すでにノード番号がＣ－ＮＥＴ上に存在しています。

C-NET error : NOT_COMPLETE(-4)
まだ送信が完了していません。

C-NET error : SEND_TO_ME(-5)
送信先が自局になっています。

C-NET error : NOT_READY(1)
送信先のノードが受信準備されていません。

C-NET error : NO_ACK(2)
送信先のノードからアクノレッジが返ってきません。

C-NET error : LINE_BUSY(6)
伝送路が２９０ミリ以上ビジィ状態です。

C-NET error : UN_KNOWN(999)
インターフェースまたは制御関数に未知の異常が発生しました。

C-NET error : HW_ERROR(888)
インターフェースまたは制御関数に異常が発生しました。

-PC/AT-

Ｃ－ＬＩＮＫエラー

C-LINK error : NO_CONNECT(-2)
まだ接続されていません。

C-LINK error : NO_COMPLETE(-4)
まだ送信が完了していません。

C-LINK error : SEND_TO_ME(-5)
送信先が自局になっています。

C-LINK error : NOT_READY(1)
送信先のノードが受信準備されていません。

C-LINK error : LINE_BUSY(6)
伝送路がビジィ状態です。

C-LINK error : HW_ERROR(888)
インターフェースまたは制御関数に異常が発生しました。

Ｐ－ＬＩＮＫエラー

P-LINK error : ARG_ERR(-1)
設定が異常です。

P-LINK error : NO_CONNECT(-2)
まだ接続されていません。

P-LINK error : NO_ACK(2)
送信先からアクノレッジが返ってきません。

P-LINK error : UK_KNOWN(999)
インターフェースまたは制御関数に未知の異常が発生しました。

P-LINK error : HW_ERROR(888)
インターフェースまたは制御関数に異常が発生しました。

通信エラー

File size too small

ファイルの長さがファイルヘッダー部（１６バイト）以下になっています。
９０X用のファイル構造については「９０X　操作説明書」を参照してください。

Could not read file

ファイル転送時、ファイルの読み込みエラーが発生しました。
☆アクセスが拒否された

Could not write file

ファイル転送時、ファイルに書き込みエラーが発生しました。
☆ディスク空き容量がない
☆アクセスが拒否された

Port input does not come

受信待機中に受信が一定時間ありません。

Port output does not go

送信できません。
☆送信先が受信準備できていない
☆通信パラメータが９０Xと一致していない
☆通信ケーブルが接続されていない

CSC 90X not ready

９０X側の受信準備ができていません。

Bad communication command or parameter

９０Xから否定応答を受信しました。
☆９０Xがシステムコマンドを受信できる状態でない
☆システムコマンドパラメータが間違っている

Bad communication command

☆システムコマンドが間違っている
☆９０Xがシステムコマンドを受信できる状態でない

Error quit process

ディレクトリコピー中、何らかのエラーが発生したのでディレクトリコピー処理を中止しました。

-PC/AT-

ファイルエラー

ホスト計算機のディスクアクセス時にエラーが発生した場合表示します。

Could not find file : xxx

☆ファイル　xxx　が見つからない

Unable to open file : xxx

☆ファイル名またはディレクトリ名　xxx　がない
☆ファイル　xxx　のアクセスが拒否された

Could not write file : xxx

☆ディスク空き容量がない
☆ファイル　xxx　のアクセスが拒否された

Could not read file : xxx

☆ファイル　xxx　のアクセスが拒否された

第3編
Ｗｉｎｄｏｗｓ用

１．概　要

本プログラム（ＣＴＬ９０１　ｆｏｒ　Ｗｉｎｄｏｗｓ９５ 以下ＣＴＬＷＩＮと呼ぶ）は、９０Ｘとパソコンの通信を行うユーティリティで、以下の機能を持っています。

☆システム構築（インストール・バージョンアップ）
☆ファイル操作
☆ターミナル

９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４シリーズの場合、本プログラムを使用してシステム構築のインストールはできません。

動作環境

ＮＥＣ　ＰＣ－９８０１シリーズ
ＩＢＭ　ＰＣ／ＡＴ，ＰＣ／ＡＴ互換機
［注意］ＰＣ－９８０１シリーズ用とＰＣ／ＡＴ、ＰＣ／ＡＴ互換機用とでは実行ファイルは異なります。
それぞれプログラム本体のファイル名は「CTLWIN98.EXE」，「CTLWINAT.EXE」となりますが、以降の説明では２つを総称してＣＴＬＷＩＮと呼びます。

ＭＳ－Ｗｉｎｄｏｗｓ９５ 日本語版　／　ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴ ４．ｘ 日本語版
［注意］Ｗｉｎ３２を使用しているため、上記以外のＯＳでは動作しません。

通信機器

「ＲＳ－２３２Ｃ」，「Ｃ－ＬＩＮＫ」，「Ｃ－ＮＥＴ」，「パラレル・リンク」の４つの通信系統が用意されています。
通信速度はＲＳ－２３２Ｃ(9600bps)を１とした場合Ｃ－ＮＥＴが６０～８０倍(4Mbps)，
Ｃ－ＬＩＮＫは、パソコンの性能にも依存しますが２～８倍(10Kbps～100Kbps)、パラレル・リンクもパソコンの性能にも依存しますが２５～４０倍になります。

☆ＲＳ－２３２Ｃ，Ｃ－ＬＩＮＫ

パソコン本体の背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタと、９０Ｘの背面ＲＳ－２３２Ｃコネクタ（ＣＨ０またはＣＨ１）を標準添付されているＲＳ－２３２Ｃシリアル（クロス）ケーブルで接続してください。

☆Ｃ－ＮＥＴ

PC98 C-NET I/Fボードまたは、PC-AT C-NET I/Fﾎﾞｰﾄﾞのコネクタと、９０１，９０２背面C-NETコネクタをC-NET I/Fケーブルで接続してください。
（PC98 C-NET I/Fボードと、C-NET I/Fケーブルまたは、 PC/AT C-NET I/Fボードと、C-NET I/Fケーブルはオプションです。）

☆パラレル・リンク

ＰＣ－９８０１の背面のプリンタ用コネクタ（ＰＣ／ＡＴ，ＰＣ／ＡＴ互換機のプリンタ用コネクタ）と、９０２背面のパラレル・リンクポートをパラレル・リンクケーブルで接続してください。（ＰＣ／ＡＴ,ＰＣ／ＡＴ互換機用のみパラレル･リンクケーブルはオプションです。）
ＰＣ－９８０１では、双方向フルセントモードをサポートしている機種（３６ｐｉｎハーフピッチコネクタが付いているもの（ＰＣ９８２１ＡＰ２以降））でサポートされています。

［注意］

・ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｃ－ＬＩＮＫ，パラレル・リンクはサポートされていません。
・９０３シリーズをお使いの場合は、通信機器が「ＲＳ－２３２Ｃ」となります。

［参考］
各通信機器の通信速度例として、パソコンのハードディスク上のファイルをＣＳＣ９０２ａのＦＳ０にファイルコピーした場合は以下のようになります。

パソコン　　DELL Optiplex GXL 5133（Pentium™ プロセッサ，133MHz）
エンハンスドＩＤハードディスク，セカンドキャッシュ 256kbyte

９０２　　ＦＳ０は、フラッシュ・ファイル・カード

ファイル　　１００Ｋｂｙｔｅ

通信機器	時間
ＲＳ－２３２Ｃ(9600bps)	約　１１７秒
Ｃ－ＬＩＮＫ	約　　１２秒
Ｃ－ＮＥＴ	約　　２秒
パラレル・リンク	約　　３秒

時間は、パソコンのディスクアクセスを含みます。

上記と同等の条件で、ホスト通信プログラム（環境動作：ＭＳ－ＤＯＳ）と本プログラムとで通信速度を比較した場合、ホスト通信プログラムと同等の通信速度がでない場合があります。その理由として、以下のことがあげられます。
○通信処理に際し、ＣＰＵを独占できないため、ＣＰＵの割り当てを待たなければならない。

［注意］ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴで使用する場合、以降の説明ではＷｉｎｄｏｗｓ９５（ｗｉｎ９５）をＷｉｎｄｏｗｓＮＴ（ｗｉｎＮＴ）に読み変えて参照してください。
写真（図と説明）は、全てＷｉｎｄｏｗｓ９５用のものです。

注意

本プログラムでは、パラレル・リンクのことをＰ－ＬＩＮＫと呼んでいます。

ディスクの内容

添付されているフロッピーディスクには以下のファイルが圧縮した状態であります。

◎Ｗｉｎｄｏｗｓ９５ホスト通信プログラムＦＤ

○ＰＣ９８用

ＣＴＬＷＩＮ９８．ＥＸＥ	ＰＣ９８用プログラム本体
ＭＦＣ４２　　．ＤＬＬ	起動用ＤＬＬファイル
ＣＳＣ＿Ｃ９８　．ＤＬＬ	通信用ＤＬＬファイル
ＣＴＬＷＩＮ　　．ＩＮＩ	通信環境ファイル
ＤＥＩＳＬ？　　．ＩＳＵ	アンインストールファイル
ＲＥＡＤＭＥ　　．ＴＸＴ	補足説明ファイル

○ＰＣ／ＡＴ用

ＣＴＬＷＩＮＡＴ．ＥＸＥ	ＰＣ／ＡＴ用プログラム本体
ＭＦＣ４２　　．ＤＬＬ	起動用ＤＬＬファイル
ＣＳＣ＿ＣＯＭＭ．ＤＬＬ	通信用ＤＬＬファイル
ＣＴＬＷＩＮ　　．ＩＮＩ	通信環境ファイル
ＤＥＩＳＬ？　　．ＩＳＵ	アンインストールファイル
ＲＥＡＤＭＥ　　．ＴＸＴ	補足説明ファイル

◎ＷｉｎｄｏｗｓＮＴホスト通信プログラムＦＤ

○ＰＣ９８用

ＣＴＬＷＩＮ９８．ＥＸＥ	ＰＣ９８用プログラム本体
ＭＦＣ４２　　．ＤＬＬ	起動用ＤＬＬファイル
ＣＳＣ＿Ｃ９８　．ＤＬＬ	通信用ＤＬＬファイル
ＣＴＬＷＩＮ　　．ＩＮＩ	通信環境ファイル
ＤＥＩＳＬ？　　．ＩＳＵ	アンインストールファイル
ＲＥＡＤＭＥ　　．ＴＸＴ	補足説明ファイル
ＷｉｎＲＴ　　．ＳＹＳ	ＷｉｎＲＴシステムファイル

○ＰＣ／ＡＴ用

ＣＴＬＷＩＮＡＴ．ＥＸＥ	ＰＣ／ＡＴ用プログラム本体
ＭＦＣ４２　　．ＤＬＬ	起動用ＤＬＬファイル
ＣＳＣ＿ＣＯＭＭ．ＤＬＬ	通信用ＤＬＬファイル
ＣＴＬＷＩＮ　　．ＩＮＩ	通信環境ファイル
ＤＥＩＳＬ？　　．ＩＳＵ	アンインストールファイル
ＲＥＡＤＭＥ　　．ＴＸＴ	補足説明ファイル
ＷｉｎＲＴ　　．ＳＹＳ	ＷｉｎＲＴシステムファイル

上記ファイルはインストール（コピー）されるファイルの一覧です。
インストールについては、本書次項の「インストール」を参照してください。
インストール後は、オリジナルのディスクは安全な場所に保管してください。

インストール

Ｗｉｎｄｏｗｓ９５は、「Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　ホスト通信プログラムＦＤ」、
ＷｉｎｄｏｗｓＮＴは、「ＷｉｎｄｏｗｓＮＴ　ホスト通信プログラムＦＤ」をお使いください。
以降では上記をインストールディスクとよび、説明を進めています。

インストールディスクでＣＴＬＷＩＮのインストールを行います。
ＣＴＬＷＩＮのファイルは、ＭＳ－ＤＯＳのＣＯＰＹコマンドなどを使ってハードディスクに複写しても、使用できません。必ずインストールプログラムを実行してください。また、インストールを実行する際には、２Ｍバイトのハードディスク容量が必要です。

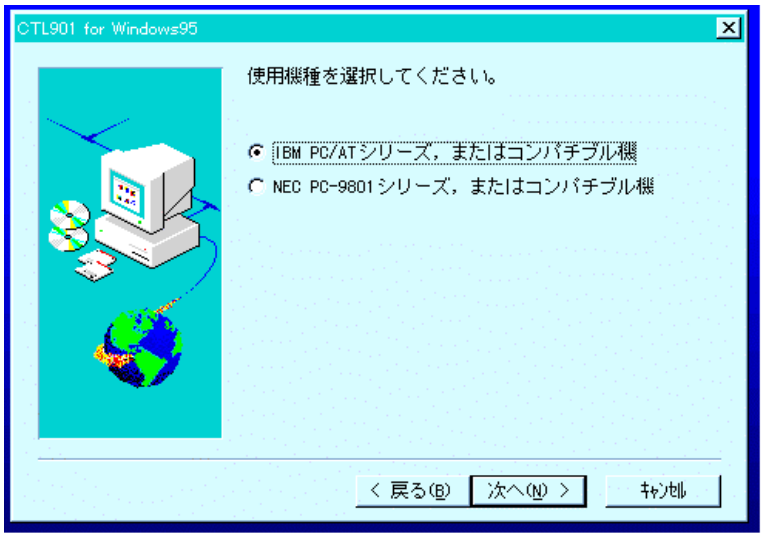
①パソコンの電源を入れ、ＭＳ－Ｗｉｎｄｏｗｓ９５を起動してください。

②「Ｗｉｎｄｏｗｓ９５　ホスト通信プログラムＦＤ」をフロッピーディスクドライブにセットします。

③[スタート]－[ファイル名を指定して実行]もしくは、ファイルマネージャー（エクスプローラなど）からＳＥＴＵＰ．ＥＸＥを起動します。
この時、他のアプリケーションを開いていている場合、全て終了してください。

④ＳＥＴＵＰ．ＥＸＥを起動します。

⑤インストールの準備ができますと、次のメニューが表示されますので、メッセージにしたがって進めてください。



左図の様なメッセージが表示されたらご使用の機種を選択して［次へ］へ進みます。

インストール先のディレクトリは、デフォルトで“ＣＳＣ９０１”となっています。
存在しない場合は、自動的に作成します。

上図のメニューで[次へ]を選択すると、インストールが開始されます。
インストール中は、他のアプリケーションの実行、電源のリセットはしないでください。

⑥インストールが終了しますと、[ＣＴＬ９０１　ｆｏｒ　Ｗｉｎ９５]グループが作成され、
ＣＴＬ９０１　ｆｏｒ　Ｗｉｎｄｏｗｓ９５（プログラム本体）と、Ｒｅａｄｍｅ．ｔｘｔファイルが登録されます。
この時、「ＲＥＡＤＭＥファイルを読みますか？」と尋ねてきますので、ＲＥＡＤＭＥを参照してください。
※ＣＴＬ９０１　ｆｏｒ　ＷＩｎｄｏｗｓ９５を起動する前に必ず、ＲＥＡＤＭＥを参照してください。

[注意]ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは「ＷｉｎＲＴ」を使用しています。
「ＷｉｎＲＴ」とは、ドライバー作成ツールで、「ＷｉｎＲＴ」を組み込むことにより本プログラムの通信機能が実現されます。
インストールを行うことにより「ＷｉｎＲＴ」もインストールされますが、他のアプリケーションで「ＷｉｎＲＴ」を使う場合は、正しく動作しない可能性があります。
インストールが終了したらパソコンを再起動します。
※パソコンを再起動しませんと、インストールによって登録された内容は更新されません。

●WindowsNTの場合は、[スタート]－[設定]－[コントロールパネル]でシリアル・ポートを選択し、COM1/COM2の設定があるかどうかを確認する必要があります。さらに、ＡＴ互換機の場合は、[COM1/2設定] → [詳細]で、以下の設定になっているかどうかも確認する必要があります。

	ＣＯＭ１	ＣＯＭ２
ＣＯＭポート番号	１	２
Ｉ／Ｏポートアドレス	３ｆ８	２ｆ８
割り込み番号（　ＩＲＱ　）	４	３

アンインストール

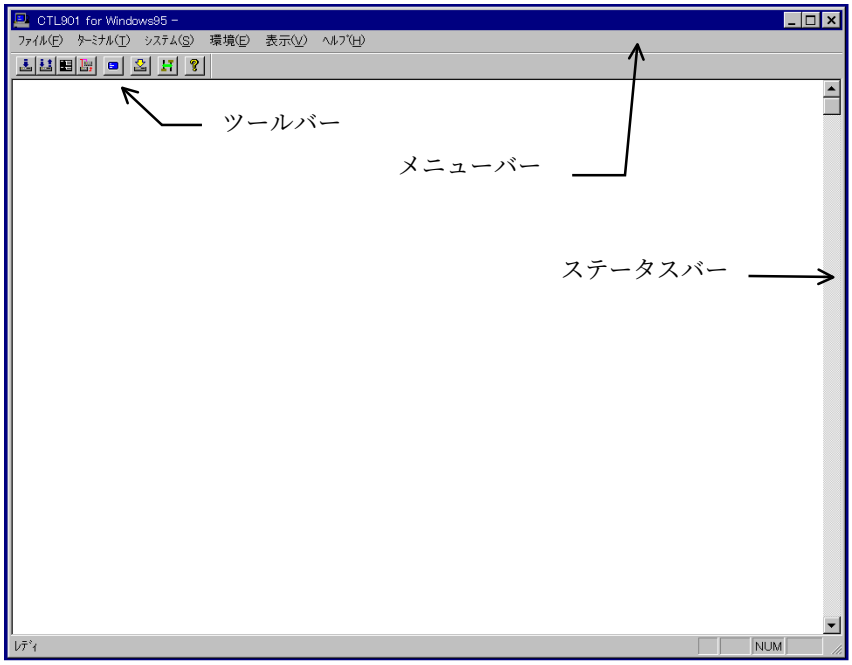
[スタート]－[設定]－[コントロールパネル]でアプリケーションの追加と削除を選択し、
ＣＴＬ９０１　ｆｏｒ　Ｗｉｎｄｏｗｓ９５を削除してください。

起　動

１．タスクバーの［スタート］からの起動。
①［スタート］ボタンをクリックし、［プログラム］を選択します。
②[CTL901 for Win95]をクリックし、CTL901 for WIndows95（プログラム本体）を選択します。

２．ファイルマネージャからの起動。
①ファイルマネージャ（エクスプローラなど）を開きます。
②プログラム本体のファイル名（CTLWIN98.EXEまたは、CTLWINAT.EXE）をダブルクリックします。

ＣＴＬＷＩＮが起動するとメインメニューが表示されます。このメニューから各処理に進みます。



［注意］
起動時に環境ファイル（WindowsﾌｫﾙﾀﾞのCTLWIN.INI）の内容によって、ＣＴＬＷＩＮの動作環境（通信機器の種類など）を設定します。
ＣＴＬＷＩＮでは、以下のファイルが存在しないと起動できません。
・ＭＦＣ４２．ＤＬＬ
・ＣＳＣ＿ＣＯＭＭ．ＤＬＬ（ＰＣ／ＡＴ、ＰＣ／ＡＴ互換機用）
・ＣＳＣ＿Ｃ９８．ＤＬＬ　（ＰＣ－９８０１シリーズ用）

環境設定については「**2.3　［環境］**」の項を参照してください。

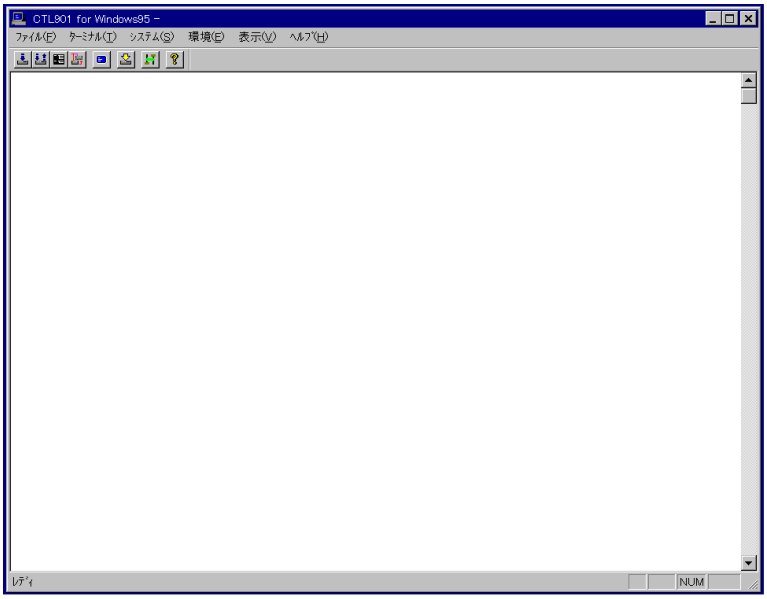
ＣＴＬＷＩＮでファイル操作、ターミナル、バージョンアップの時、９０Ｘ本体は「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

日本語モード

英語モード

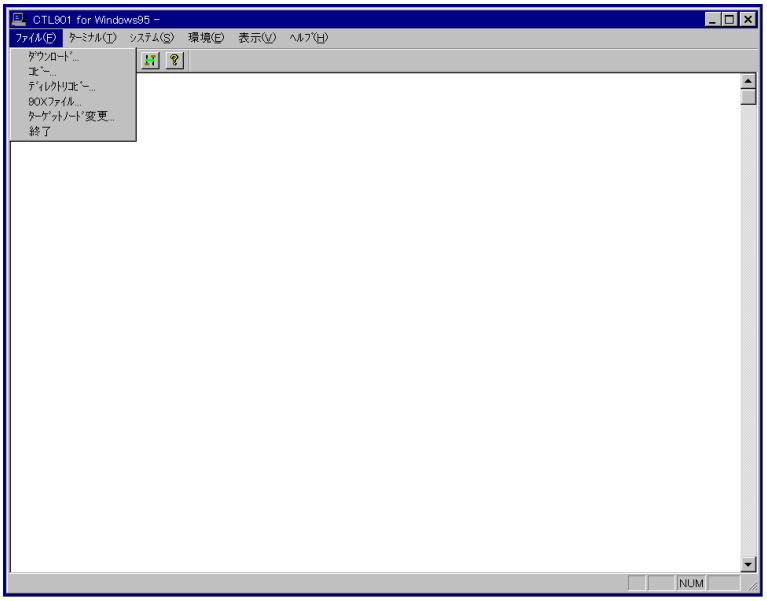
２．操作の手順

ＣＴＬＷＩＮの操作は、ＭＳ－Ｗｉｎｄｏｗｓ９５の操作環境そのものです。
ほとんどの操作をマウスで行うことができます。



「ファイル」をクリック↓　　↑メニュー以外をクリック

［ファイル］メニューが表示されます。



［注意］

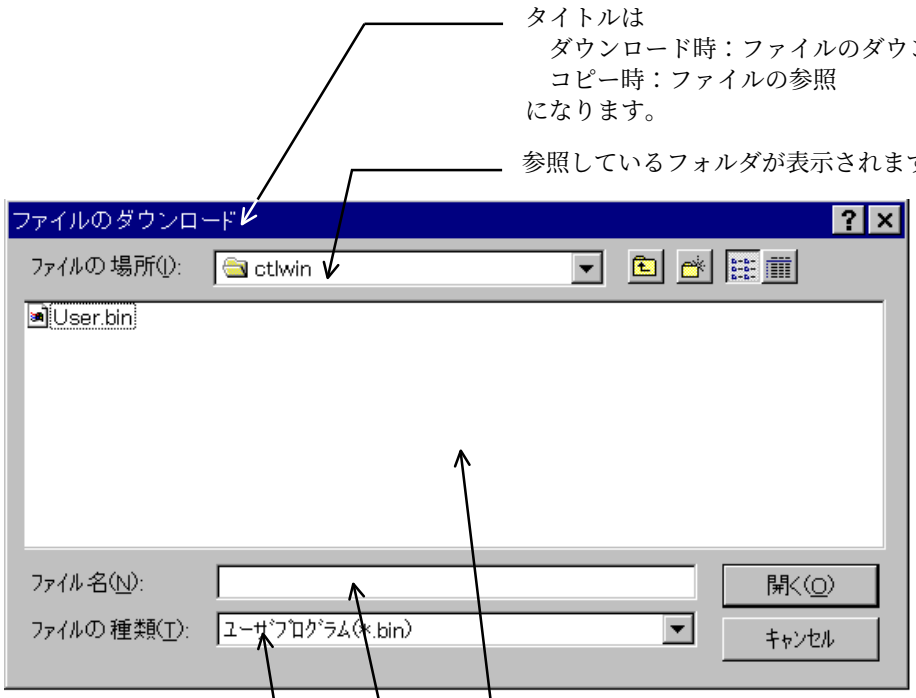
1．現バージョンではショートカットキー（右クリック）に対する操作、機能はありません。
2．現バージョンではマウス操作によってメニュー等選択できます。
　キーボードによるコマンドのショートカットの機能はありません。

2.1　共通ダイアログボックス

パソコン側および９０Ｘのファイル選択操作時、例えば
　　☆ユーザープログラムのダウンロード
　　☆ファイルのコピー
等の操作時に、共通に使用されるウインドウがあります。

2.1.1　パソコン側ファイル参照ダイアログボックス

パソコン側のファイルを指定するもので、下記の形式で表示されます。



[操作方法]

１．マウスによる選択
　マウスでファイル名を選択し、［開く］ボタンをクリックします。

２．キーボードによる直接入力
　キーボードによりファイル名を直接入力し、［開く］ボタンをクリックします。

☆ファイルの種類

一覧表示するファイル名の種類を選択します。以下の中から選べます。

- ユーザプログラム（＊．ｂｉｎ）
- ユーザプログラム（＊．ｅｘｅ）
- ユーザプログラム（＊．９０３）
- ユーザプログラム（＊．９０４）
- データファイル（＊．ｄ９１）
- 全てのファイル（＊．＊）

☆**開く** ボタン

選択したファイル名でダウンロードを開始または、コピー時のパスとして設定し、ダイアログボックスを終了します。

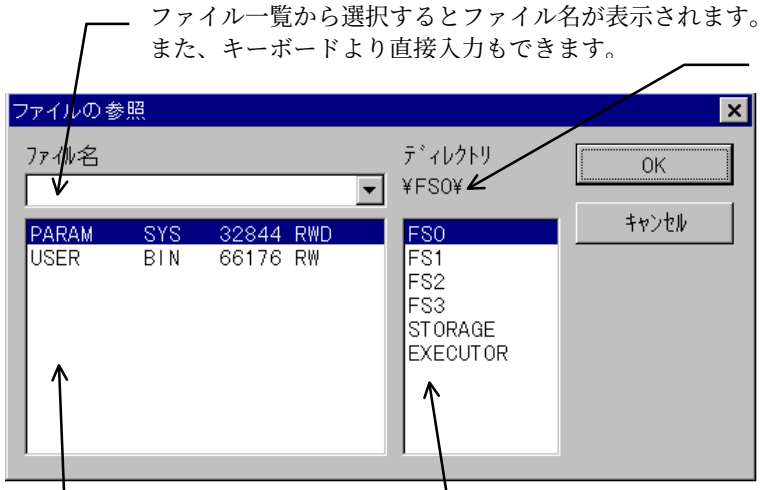
☆**キャンセル** ボタン

選択したファイル名を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］最初にウインドウ内に表示されるファイルのパスは［動作環境］の「ユーザーフォルダ」で設定したものです。

2.1.2　９０Ｘファイル参照ダイアログボックス

９０Ｘ側のパスを指定するもので、下記の形式で表示されます。



[操作方法]

○ディレクトリの選択

１．マウスによる選択
マウスでディレクトリをダブルクリックします。

○ファイルの選択

１．マウスによる選択
マウスでファイル名を選択し、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

２．キーボードによる直接入力
キーボードによりファイル名を直接入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

３．ファイル名の省略
コピーの転送先としてファイル名を省略（転送元ファイル名と同じにする）したい場合は、何も入力せず ［ＯＫ］ボタンをクリックします。

［注意］９０２シリーズのパスＦＤ０，ＲＤ０はサポートしておりません。

☆ＯＫ ボタン

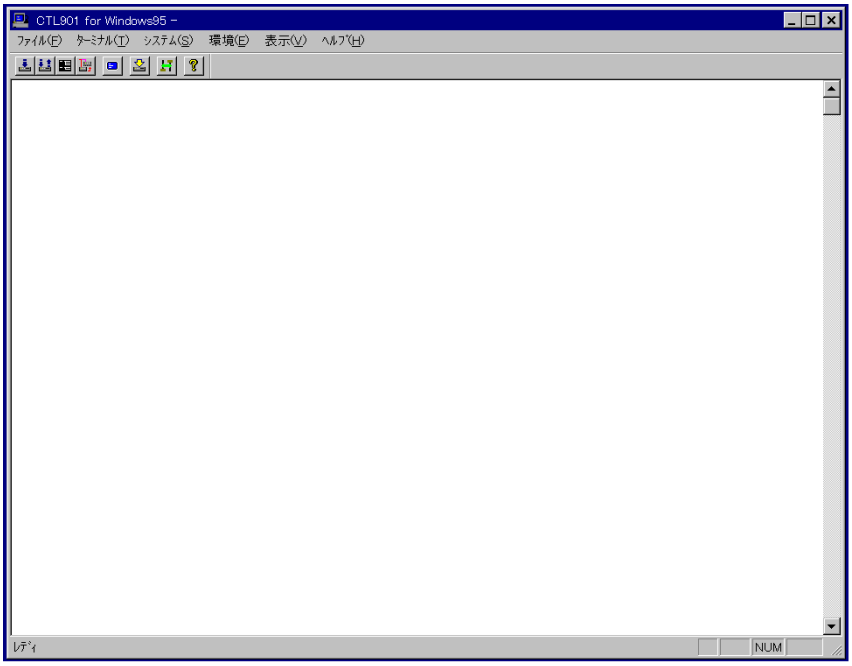
選択したファイル名でコピー時のパスとして設定し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

選択したファイル名を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

2.2 ［メインメニュー］

ＣＴＬＷＩＮが起動すると、最初に表示されるメニューです。



[操作方法]

マウスで、各メニューを選択します。

☆ファイル

ユーザープログラムのダウンロード等、各種ファイル操作を行います。

☆ターミナル

９０Ｘのターミナルになります。

☆システム

システムのインストール，バージョンアップを行います。

☆環境

ＣＴＬＷＩＮの動作環境を設定します。

☆表示

ツールバー、ステータスバーの表示の有無を選択します。

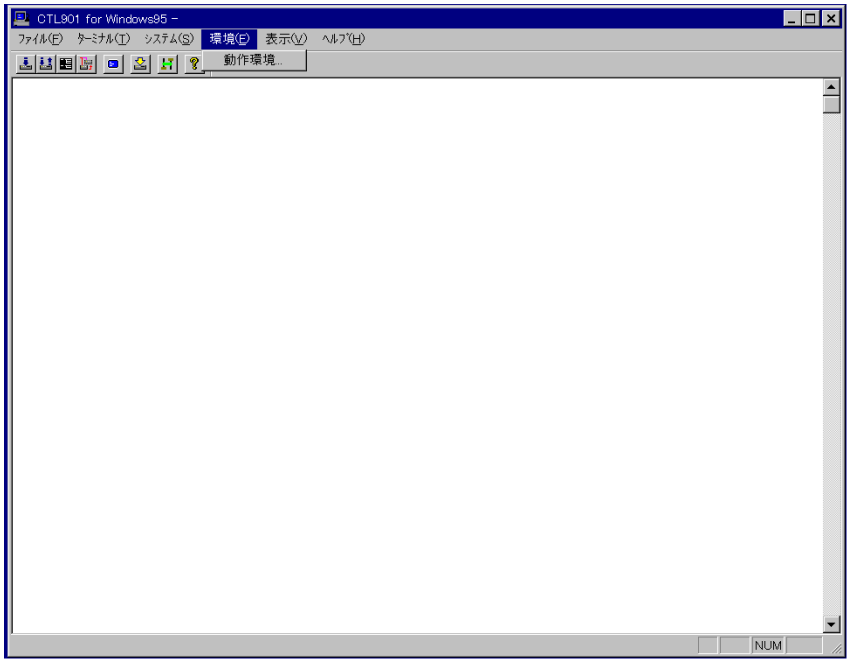
☆ヘルプ

バージョン情報など表示します。

最初に　**環境**　を選択して、ＣＴＬＷＩＮの動作環境を設定します。

2.3　[環境]

ＣＴＬＷＩＮの動作環境を設定します。



[操作方法]

マウスで各項目をクリックして選択します。

☆動作環境

通信デバイスなど各動作環境を設定します。

2.3.1 ［環境］＞ **［動作環境］** ダイアログボックス

ＣＴＬＷＩＮの動作環境を設定し、環境ファイル（CTLWIN.INI）を更新します。

動作環境ダイアログボックスの表示例（デフォルト値）

選択する通信デバイスによってボタンの表示が変わります。

［操作方法］

①マウスで各項目をクリックして選択します。数値、文字列はキーボードにより入力します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆通信デバイス

９０Ｘと通信するデバイスを切り替えます。

→９０Ｘ本体の通信機器と**必ず一致させてください！！**

デバイスを選択すると、そのデバイスの詳細を設定するボタンが表示されます。
ボタンをクリックすると詳細設定を行うダイアログボックスが表示されます。
［ボタン］をクリックすると

ＲＳ－２３２Ｃ環境設定 ダイアログボックス
Ｃ－ＮＥＴ環境設定 ダイアログボックス
Ｃ－ＬＩＮＫ環境設定 ダイアログボックス
Ｐ－ＬＩＮＫ環境設定 ダイアログボックス

になります。

［注意］ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｃ－ＬＩＮＫ，Ｐ－ＬＩＮＫはサポートされていません。
Ｐ－ＬＩＮＫ環境設定ダイアログボックスはＰＣ／ＡＴ互換機のみ表示されます。

☆リトライタイム

通信中にリトライ可能なエラーが発生した場合に、リトライを繰り返す時間を秒単位で設定します。省略時は３０秒となります。設定範囲は１～９９です。

☆ユーザーフォルダ

このフォルダはファイル操作時のサーチパスとして使用されます。
省略時はカレントフォルダになります。
キーボードによる直接入力も可能ですが、マウスで［参照］ボタンをクリックすることにより、フォルダの一覧表示の中から選択することができますので、ユーザープログラムなどがはいっているフォルダを指定します。

☆システムフォルダ

このフォルダはシステム構築時のサーチパスとして使用されます。
省略時はカレントフォルダになります。
キーボードによる直接入力も可能ですが、マウスで［参照］ボタンをクリックすることにより、フォルダの一覧表示の中から選択することができますので、９０Ｘシステムプログラムがはいっているフォルダを指定します。

☆**ＯＫ** ボタン

設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。このときの設定値は環境ファイルに保存されます。

☆**キャンセル** ボタン

設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］「９０Ｘ　操作説明書」に記載されている「システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定」で

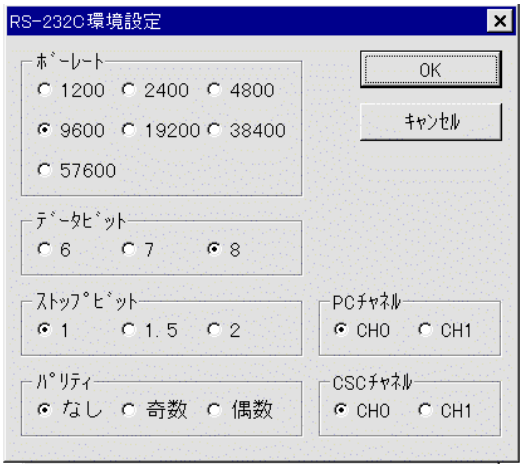
エコーバック	ＯＮ
ターミネート	ＣＲ／ＬＦ

に必ず設定してください。

（９０Ｘの操作手順）
システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

2.3.1.1 ［動作環境］＞［ＲＳ－２３２Ｃ環境設定］ダイアログボックス

ＲＳ－２３２Ｃの通信パラメータを設定します。下記設定がデフォルトになります。



［操作方法］

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆ボーレート

ＲＳ－２３２Ｃのボーレートを指定します。

☆データビット

ＲＳ－２３２Ｃのデータ長を指定します。

☆ストップビット

ＲＳ－２３２Ｃのストップビット長を指定します。

☆パリティ

ＲＳ－２３２Ｃのパリティを指定します。

☆ＰＣチャネル

パソコン本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

☆ＣＳＣチャネル

９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

☆ＯＫ ボタン

設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、データビットを８に設定してください。

2.3.1.2 ［動作環境］＞［Ｃ－ＮＥＴ環境設定］ダイアログボックス

＜ＰＣ９８の場合＞

Ｃ－ＮＥＴの通信パラメータを設定します。マイノード以外はＰＣ９８ Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチ設定と同じ設定をしてください。下記設定がデフォルトになります。

[操作方法]

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆マイノード

パソコン自身の「Ｃ－ＮＥＴノード番号」です。通常は“０”で使用してください。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は０～７です。

☆ターゲットノード

ターゲット９０Ｘのノード番号です。通常は“８”で使用してください。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は８～６３です。

☆バッファメモリアドレス

Ｃ０ ・・・・・・・・・Ｃ０００００ｈ～Ｃ３ＦＦＦｈ	Ｄ０・・・・・・・Ｄ０００００ｈ～Ｄ３ＦＦＦｈ
Ｃ４ ・・・・・・・・・Ｃ４０００ｈ～Ｃ７ＦＦＦｈ	Ｄ４・・・・・・・Ｄ４０００ｈ～Ｄ７ＦＦＦｈ
Ｃ８ ・・・・・・・・・Ｃ８０００ｈ～ＣＢＦＦＦｈ	Ｄ８・・・・・・・Ｄ８０００ｈ～ＤＢＦＦＦｈ
ＣＣ ・・・・・・・・・ＣＣ０００ｈ～ＣＦＦＦＦｈ	ＤＣ・・・・・・・ＤＣ０００ｈ～ＤＦＦＦＦｈ

☆割り込みレベル

インターフェースカードの割り込みレベルを設定します。
ＩＲＱ９（ＩＮＴ３）は固定ディスク、ＩＲＱ１０（ＩＮＴ４１）は６４０ＫＢ　ＦＤ、
ＩＲＱ１３（ＩＮＴ６）はマウス割り込みと競合する可能性がありますので注意してください。

☆ポートＩ／Ｏアドレス

Ｃ０ ・・・・・・・・・Ｃ０ＸＸｈ
Ｃ１ ・・・・・・・・・Ｃ１ＸＸｈ
Ｃ２ ・・・・・・・・・Ｃ２ＸＸｈ
Ｃ３ ・・・・・・・・・Ｃ３ＸＸｈ

☆**ＯＫ** ボタン
設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆**キャンセル** ボタン
設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］
1．ここで設定したノード番号は、［ターゲットノード変更］で選択するノード番号と同じものです。
2．Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチの設定の詳細は「**ＰＣ９８　Ｃ－ＮＥＴ　Ｉ／Ｆボード取扱説明書」**を参照してください。

2.3.1.3 ［動作環境］＞［Ｃ－ＮＥＴ環境設定］ダイアログボックス

＜ＰＣ／ＡＴの場合＞

Ｃ－ＮＥＴの通信パラメータを設定します。マイノード以外はＰＣ／ＡＴ Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチ設定と同じ設定をしてください。下記設定がデフォルトになります。

[操作方法]

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆マイノード

パソコン自身の「Ｃ－ＮＥＴノード番号」です。通常は“０”で使用してください。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は０～７です。

☆ターゲットノード

ターゲット９０Ｘのノード番号です。通常は“８”で使用してください。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は８～６３です。

☆バッファメモリアドレス

Ｃ８ ・・・・・・・・・Ｃ８０００ｈ～ＣＢＦＦＦｈ
ＣＣ ・・・・・・・・・ＣＣ０００ｈ～ＣＦＦＦＦｈ
Ｄ０ ・・・・・・・・・Ｄ００００ｈ～Ｄ３ＦＦＦｈ
Ｃ４ ・・・・・・・・・Ｄ４０００ｈ～Ｄ７ＦＦＦｈ
Ｄ８・・・・・・・Ｄ８０００ｈ～ＤＢＦＦＦｈ
ＤＣ・・・・・・・ＤＣ０００ｈ～ＤＦＦＦＦｈ
Ｅ０・・・・・・・Ｅ００００ｈ～Ｅ３ＦＦＦｈ
Ｅ４・・・・・・・Ｅ４０００ｈ～Ｅ７ＦＦＦｈ

☆割り込みレベル

インターフェースカードの割り込みレベルを設定します。

☆ポートＩ／Ｏアドレス

３３８
３４０
３４０
３４８

☆**ＯＫ** ボタン
設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆**キャンセル** ボタン
設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］
1．ここで設定したノード番号は、［ターゲットノード変更］で選択するノード番号と同じものです。
2．Ｃ－ＮＥＴボードのディップスイッチの設定の詳細は「**ＰＣ／ＡＴ Ｃ－ＮＥＴ Ｉ／Ｆボード取扱説明書」**を参照してください。

2.3.1.4 ［環境設定］＞［Ｃ－ＬＩＮＫ環境設定］ダイアログボックス

Ｃ－ＬＩＮＫの通信パラメータを設定します。下記設定がデフォルトになります。

[操作方法]

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆マイノード

パソコン自身の「Ｃ－ＬＩＮＫノード番号」です。通常は“０”で使用してください。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は０～７です。

☆ターゲットノード

ターゲット９０Ｘの「Ｃ－ＬＩＮＫノード番号」です。
マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
設定範囲は８～６３です。

☆ＰＣチャネル

パソコン本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

☆ＣＳＣチャネル

９０Ｘ本体で使用するＲＳ－２３２Ｃのチャネルを指定します。

☆ＯＫ ボタン

設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

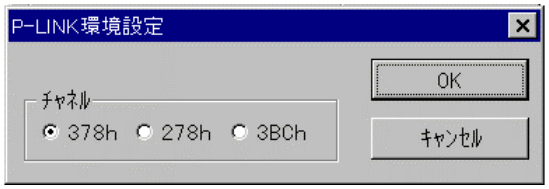
［注意］

1. ９０Ｘシステムプログラムおよびユーザプログラム等を転送する場合は、RS-232C環境設定のデータビットを８に設定してください。
2. ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｃ－ＬＩＮＫはサポートされていないため、ダイアログボックスは開くことはできません。

2.3.1.5 ［環境設定］＞［Ｐ－ＬＩＮＫ環境設定］ダイアログボックス

＜ＰＣ／ＡＴの場合＞

Ｐ－ＬＩＮＫの通信パラメータを設定します。下記設定がデフォルトになります。



［操作方法］

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆チャネル

パラレルリンクのポートアドレスを設定します。

３７８ｈ・・・・・・・３７８ｈ～３７Ａｈ
２７８ｈ・・・・・・・２７８ｈ～２７Ａｈ
３ＢＣｈ・・・・・・・３ＢＣｈ～３ＢＥｈ

☆ＯＫ ボタン

設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

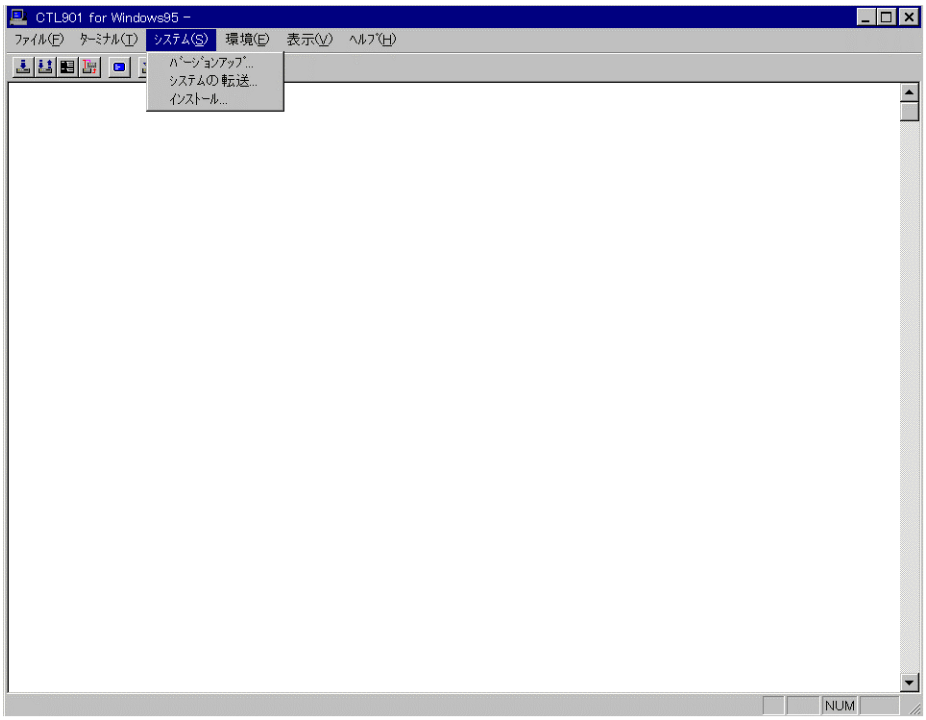
設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］

1．ＰＣ－９８０１シリーズでは、Ｐ－ＬＩＮＫ環境設定ダイアログボックスはありません。
2．ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｐ－ＬＩＮＫはサポートされていないため、ダイアログボックスは開くことはできません。

2.4　［システム］

９０Ｘシステムプログラムの
インストール　および　**バージョンアップ**
を行います。
９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４シリーズの場合インストールは使用できませんのでご注意ください。



[操作方法]
マウスで各項目をクリックして選択します。

☆バージョンアップ

９０Ｘシステムプログラムをバージョンアップする時に使用します。
パソコンのディスクから、システムプログラムを読み込み、９０Ｘのファイル装置に書き込みます。

☆システムの転送

９０１システムプログラム(901.SYS)を、パソコンのディスクから読み込み、９０１のメインメモリに転送します。
９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４の場合は使用できませんのでご注意ください。

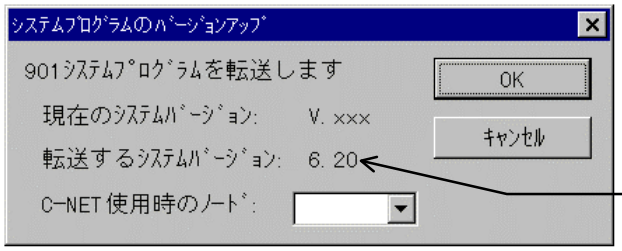
☆インストール

９０１システムプログラム(901.SYS)を、パソコンのディスクから読み込み、９０１のメインメモリに転送します。
続けて、９０１システムプログラム＆ローダ(901.SYS，901.BOT)を９０１のファイル装置に書き込みます。
９０２シリーズおよび９０３シリーズ，９０４の場合は使用できませんのでご注意ください。

2.4.1 ［システム］＞［バージョンアップ］ダイアログボックス

９０Ｘシステムプログラムのバージョンアップを行います。

バージョンアップの表示形式です。



転送するシステムのバージョン番号が表示されます。

［操作方法］

①通信デバイスがＣ－ＮＥＴ、Ｃ－ＬＩＮＫの場合、マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。

②［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆Ｃ－ＮＥＴ（C-ＬＩＮＫ）使用時のノード番号

ターゲット９０Ｘのノード番号です。

☆ＯＫ ボタン

バージョンアップを実行し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

バージョンアップは実行せず、ダイアログボックスを終了します。

［注意］

1．通信デバイスがＲＳ－２３２Ｃ，Ｐ－ＬＩＮＫの場合、ノード番号は表示されません。

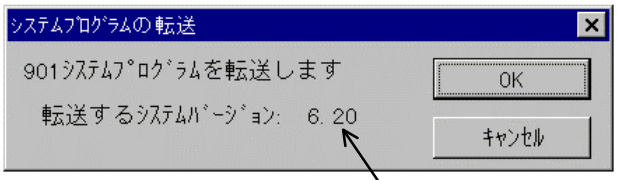
2．「転送するシステムバージョン」で表示するバージョン番号は、［動作環境］の「システムフォルダ」で設定したパス内に存在する９０Ｘシステムプログラムのバージョン（タイムスタンプ）を表示します。
設定したパス内に９０Ｘシステムプログラムが存在しない場合Ｖ．？？？と表示され、バージョンアップは行われません。

3．ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｃ－ＬＩＮＫ，Ｐ－ＬＩＮＫはサポートされていません。

2.4.2 ［システム］＞［システムの転送］ダイアログボックス

ＲＳ－２３２Ｃを使用して９０１システムプログラムのインストールを行います。

システムの転送の表示形式です。



転送するシステムのバージョン番号が表示されます。

［操作方法］

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆ＯＫ ボタン

システムの転送を実行し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

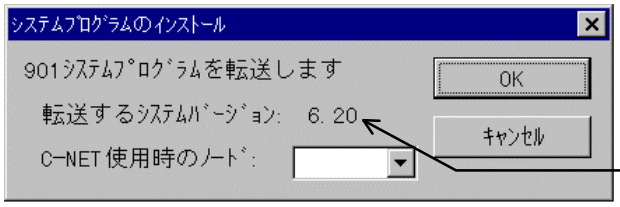
システムの転送は実行せず、ダイアログボックスを終了します。

［注意］「転送するシステムバージョン」で表示するバージョン番号は、［動作環境］の「システムフォルダ」で設定したパス内に存在する９０１システムプログラムのバージョン（タイムスタンプ）を表示します。
設定したパス内に９０１システムプログラムが存在しない場合Ｖ．？？？と表示され、システムの転送は行われません。

2.4.3 ［システム］＞［インストール］ダイアログボックス

９０１システムプログラムのインストールを行います。

インストールの表示形式です。



転送するシステムのバージョン番号が表示されます。

[操作方法]

①通信デバイスがＣ－ＮＥＴ、Ｃ－ＬＩＮＫの場合、マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
②［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆Ｃ-ＮＥＴ（Ｃ-ＬＩＮＫ）使用時のノード番号

ターゲット９０１のノード番号です。

☆ＯＫ ボタン

インストールを実行し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

インストールは実行せず、ダイアログボックスを終了します。

［注意］

1．通信デバイスがＲＳ－２３２Ｃの場合、ノード番号は表示されません。
2．「転送するシステムバージョン」で表示するバージョン番号は、［動作環境］の「システムフォルダ」で設定したパス内に存在する９０１システムプログラムのバージョン（タイムスタンプ）を表示します。設定したパス内に９０１システムプログラムが存在しない場合Ｖ．？？？と表示され、インストールは行われません。
3．ＭＳ－ＷｉｎｄｏｗｓＮＴでは、Ｃ－ＬＩＮＫはサポートされていません。

［注意］

1．９０１システムプログラムは、**動作環境**ダイアログボックスの**システムフォルダ**で設定したフォルダ下になければなりません。（システムフォルダに何も設定されていない時はカレントフォルダになっていなければなりません）

2．ＣＴＬＷＩＮでファイル操作、ターミナル、バージョンアップの時、本体は「ホームメニュー」画面になっていなければなりません。

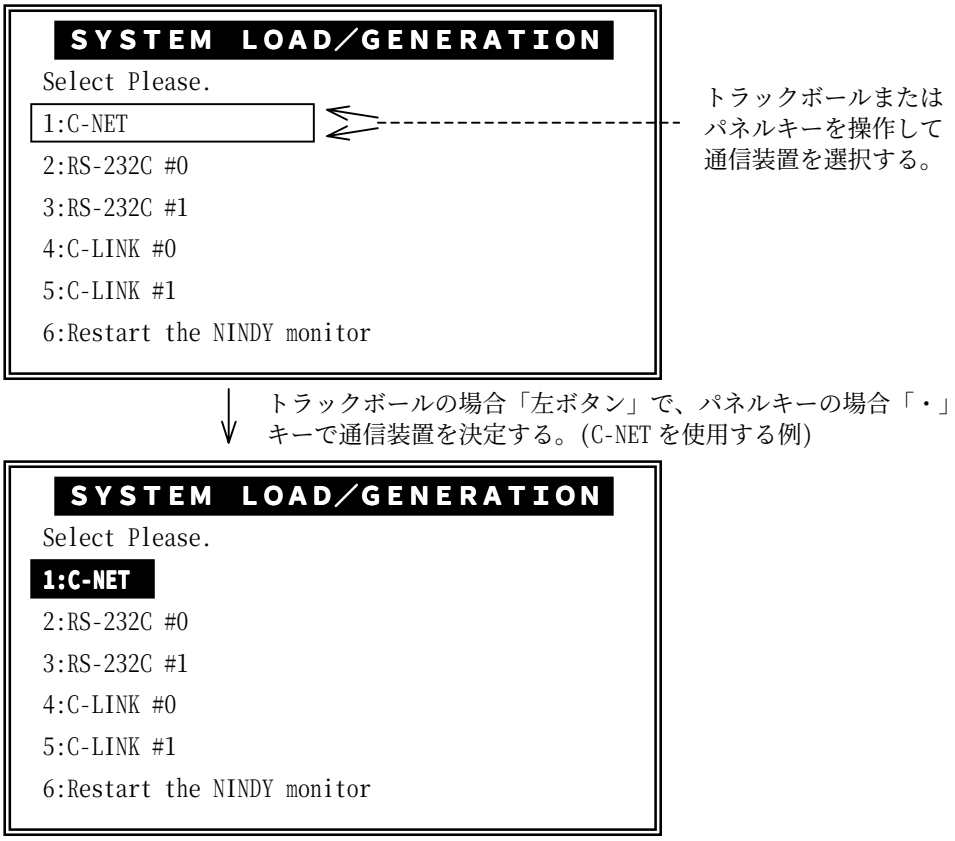
日本語モード

英語モード

3．**システムの転送**および**インストール**を実行する時、９０１本体は、「システムのインストール要求」画面になっていなければなりません。

＜９０１本体の操作＞

転送を始める前に、下記の操作で通信装置を決定しておいてください。



※９０１シリーズの機種により表示される内容が異なります。御留意ください。

4．**ＲＳ－２３２Ｃ**を使用してシステムの**インストール**を行う場合の手順

①まず**システムの転送**を行います。（［注意３］で通信装置でＲＳ２３２Ｃを選択）

②「９０Ｘ　操作説明書」に記載されているシステムメニュー操作で、９０１のシステムコマンドの通信装置としてＲＳ２３２Ｃを選択します。

（９０１の操作手順）

システムパラメーター入出力設定－ホスト通信パラメータ設定

システムパラメーター入出力設定－ＲＳ２３２Ｃパラメータ設定

☆セーブは絶対に行わないでください。

③９０１を「ホームメニュー」画面にします。

④最後に**バージョンアップ**を行います。

5．９０１本体のファイル装置
本体前面のファイル装置実装スロットに、ファイル装置が実装されている事を確認してください。
なお、ＳＲＡＭカードファイル装置の場合はＳＲＡＭカード（MF32MO-M6DAP01三菱製）が、ＰＣカードファイル装置の場合はＰＣカードが装着されている事を確認してください。

6．リトライタイムについて
システムインストール時にはリトライタイムを最低５秒にしてください。
５秒以下の場合、転送が正常にいかない場合があります。

7．システムの転送およびインストールの作業が終了後、**必ず９０１本体をリセット**してください。ファイル装置にインストールしたシステムが起動します。

-Windows-

転送時の確認メッセージ

開　始

［システム］［ｘｘｘ］をクリックします。

転送開始

通信デバイスが C-NET,C-LINK の場合は、
901 のノード番号を選択します。

NODE０８ ▼　※現在は“ ８ ”を指定します。

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

転送開始
メッセージ

［ＯＫ］ボタンをクリックすると転送を開始します。

転送中
メッセージ

転送状況をインジケータ（プログレスバー）が表示されます。

※現バージョンでは［キャンセル］ボタンを
クリックすることはできません。

この表示は１個のファイル転送毎に行われます。

転送終了
メッセージ

転送結果を表示します。
［ＯＫ］ボタンをクリックすると終了します。

終　了

［注意］

９０１のノード番号設定は、「９０Ｘ　操作説明書」の
システムパラメーター入出力設定－Ｃ－ＮＥＴパラメータ設定

○システム ― ○ 入出力 ― ○ C_NET

あるいは
システムパラメーター入出力設定－Ｃ－ＬＩＮＫパラメータ設定

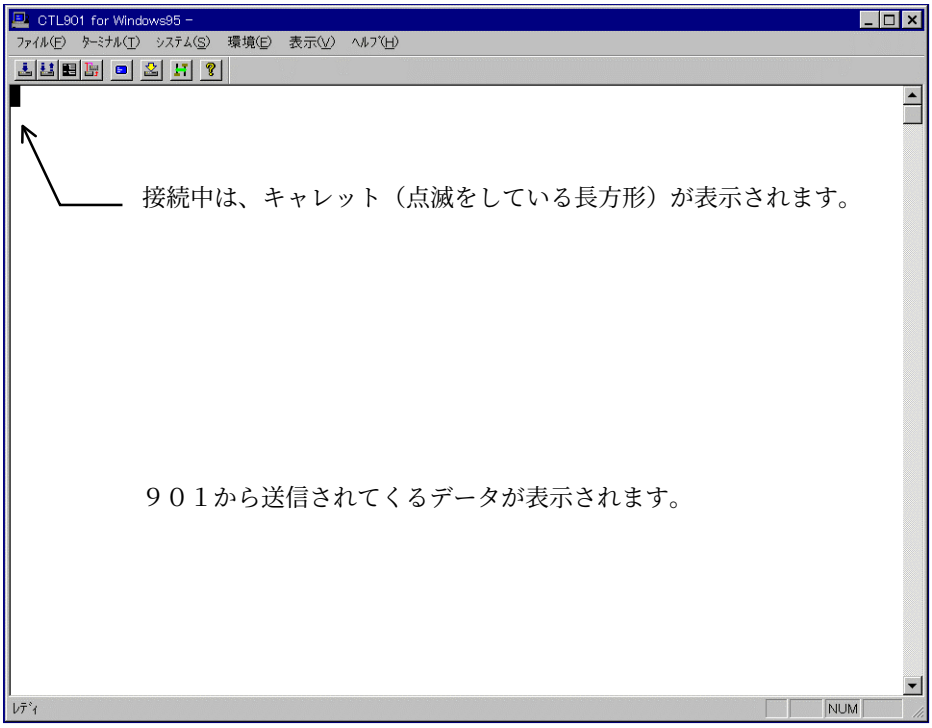
○システム ― ○ 入出力 ― ○ C_LINK

を参照してください。

2.5　［ターミナル］

パソコンを、９０Ｘのターミナルにします。

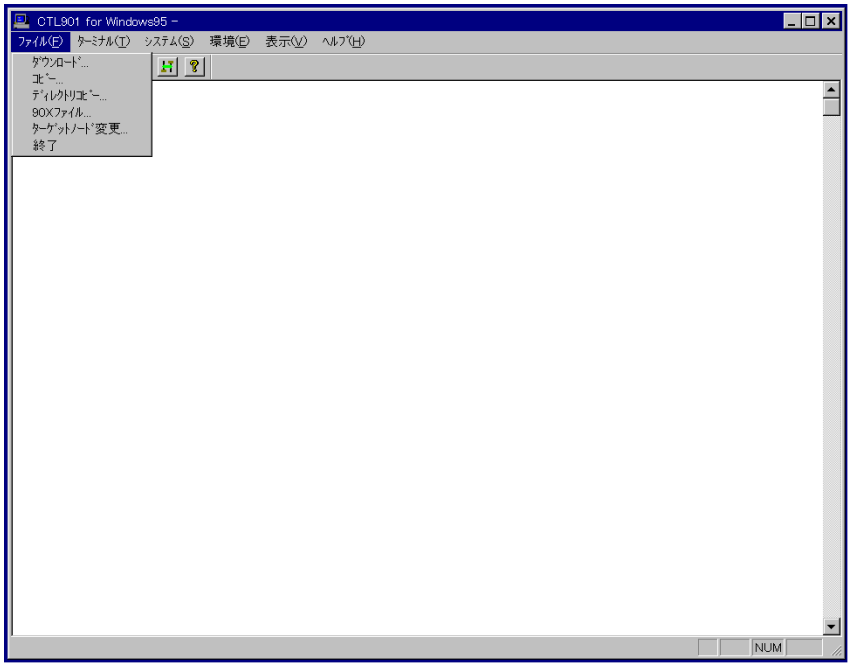
マウスでメニューをクリックするとターミナルになります。



もう一度クリックすると終了します。

2.6　［ファイル］

９０Ｘの各種ファイル操作を行います。



［操作方法］

マウスで各項目をクリックして選択します。

☆ダウンロード

ユーザープログラムを９０Ｘのメインメモリの実行エリアに転送します。
（ユーザープログラム以外の転送は、コピー機能で行ってください。）

☆コピー

パソコン－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でコピーを行います。

☆ディレクトリコピー

パソコン－９０Ｘ、および９０Ｘ内部でのディレクトリ単位のコピーを行います。

☆９０Ｘファイル

９０Ｘファイル装置のディレクトリ情報を表示したり、９０Ｘのファイルを削除します。

☆ターゲットノード変更

通信デバイスが「Ｃ－ＮＥＴ」時に、ターゲット９０Ｘのノード番号を指定します

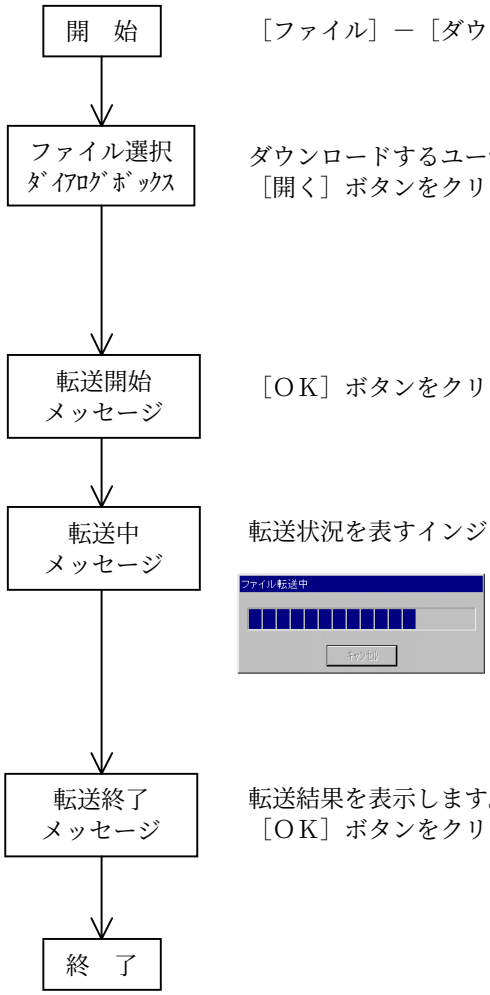
☆終了

ＣＴＬＷＩＮを終了します。

［注意］現バージョンでは、ディレクトリコピーの機能は用意していません。

2.6.1 ［ファイル］＞［ダウンロード］ダイアログボックス

下記の手順で操作します。



［ファイル］－［ダウンロード］をクリックします。

ダウンロードするユーザプログラムのファイル名を選択後、
［開く］ボタンをクリックします。

［ＯＫ］ボタンをクリックすると転送を開始します。

転送状況を表すインジケータ（プログレスバー）が表示されます。

※現バージョンでは［キャンセル］ボタンを
クリックすることはできません。

転送結果を表示します。
［ＯＫ］ボタンをクリックすると終了します。

［注意］

1．ダウンロードされるファイルは全て９０Ｘ上のフォーマットになっている必要があります。
９０１用実行ファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時は、ユーティリティ「HTB901(E).EXE」，９０２，９０３，９０４用実行ファイルおよびデータファイルを９０Ｘ上のフォーマットにする時は、ユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。
2．ロングネームのファイル名のダウンロードは行わないでください。

2.6.2 ［ファイル］＞［コピー］ダイアログボックス

ホスト（パソコン側）－９０X間および、９０X内部でのファイルコピーを行います。

［コピー］の表示形式です。

[操作方法]

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②各項目の選択が完了したら、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆送り側

９０Xかホストかを選択し、ファイル・パス名を指定します。
ファイル・パス名はキーボードによる直接入力も可能ですが、マウスで［参照］ボタンをクリックすることにより、フォルダ（ディレクトリ）の一覧表示の中から選択することができます。

☆受け側

９０Xかホストかを選択し、ファイル・パス名を指定します。
ファイル・パス名はキーボードによる直接入力も可能ですが、マウスで［参照］ボタンをクリックすることにより、フォルダ（ディレクトリ）の一覧表示の中から選択することができます。

☆ＯＫ ボタン

コピーを開始し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

コピーを中止し、ダイアログボックスを終了します。

［注意］

1．パソコンから９０Xへコピーされるファイルは全て９０X上のフォーマットになっている必要があります。
９０１用実行ファイルを９０X上のフォーマットにする時はユーティリティ「HTB901.EXE」、９０２，９０３，９０４用およびデータファイルを９０X上のフォーマットにする時はユーティリティ「MKB901.EXE」をお使いください。
2．ロングネームのファイル名のコピーは行わないでください。

コピーの操作手順

開　始

［ファイル］［コピー］をクリックします。

「送り側」および「受け側」の
ファイルパスを指定する

転送開始

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

転送開始
メッセージ

［ＯＫ］ボタンをクリックすると転送を開始します。

転送中
メッセージ

転送状況を表すインジケータ（プログレスバー）が表示されます。

※現バージョンでは［キャンセル］ボタンを
クリックすることはできません。

転送終了
メッセージ

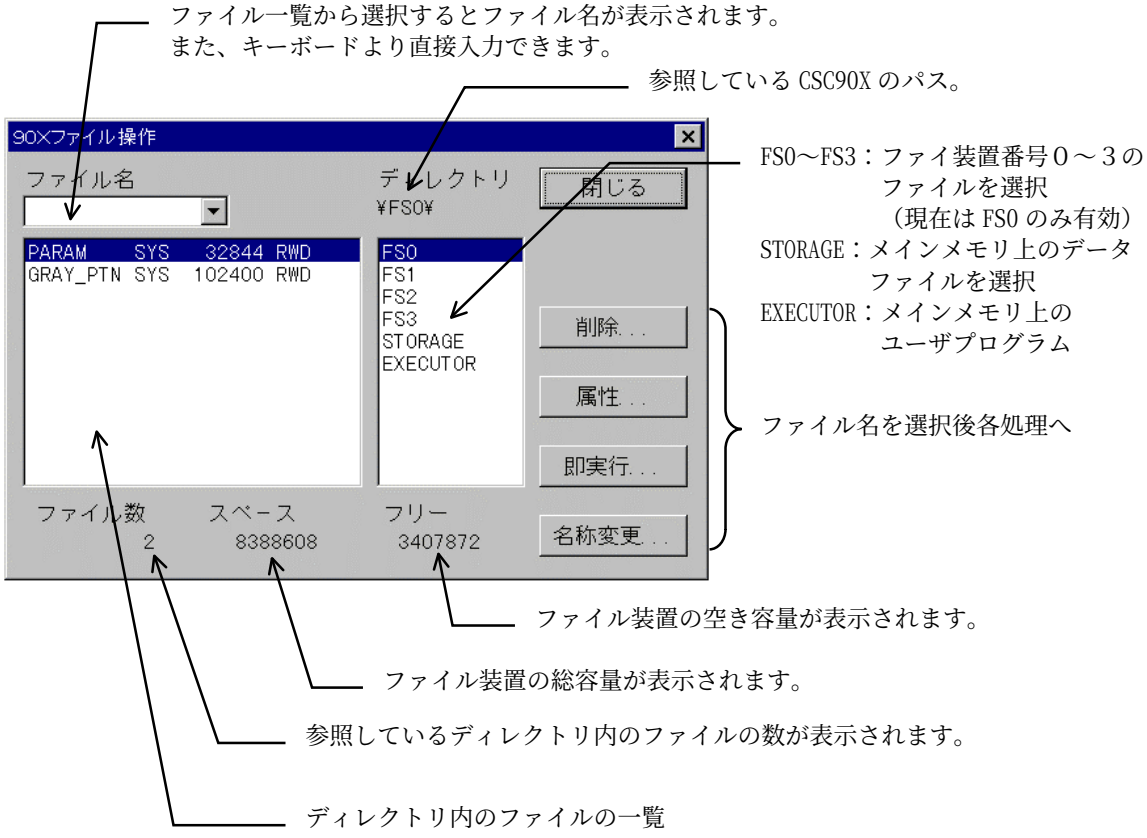
転送結果を表示します。
［ＯＫ］ボタンをクリックすると終了します。

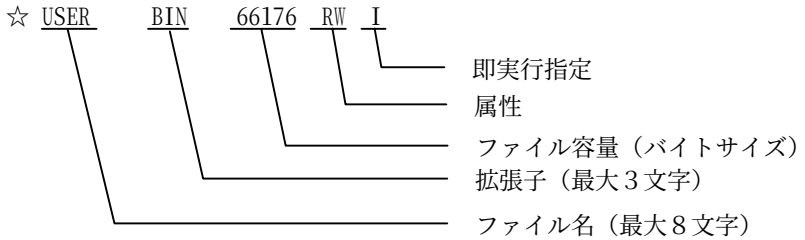
終　了

2.6.3 ［ファイル］＞［９０Ｘファイル］ダイアログボックス

９０Ｘのファイルを表示し、ファイルの削除など各ファイルの加工を行います。

［９０Ｘファイル］の表示形式です。





☆属性

RW ・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ属性	RWD・・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
R ・・・・・ ﾘｰﾄﾞｵﾝﾘｰ属性	RD・・・・・・・ ﾘｰﾄﾞ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性
W ・・・・・ ﾗｲﾄｵﾝﾘｰ属性	WD・・・・・・・ ﾗｲﾄ/ﾗﾝﾀﾞﾑ属性

☆即実行指定

I ・・・・・ 即実行指定されています。

［操作方法］

①マウスで各項目をクリックして選択します。
②ダイアログボックスを終了するには、［閉じる］ボタンをクリックします。

☆削除 ボタン
選択したファイル名を削除します。

☆属性 ボタン
選択したファイル名の属性を変更します。

☆即実行 ボタン
選択したファイル名の即実行の指定をします。

☆名称変更 ボタン
選択したファイル名の名称を変更します。

☆閉じる ボタン
ダイアログボックスを終了します。

2.6.4 ［９０Ｘファイル］＞ **［削除］** ダイアログボックス

９０Ｘのファイルを削除します。

［削除］の表示形式です。

［操作方法］

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

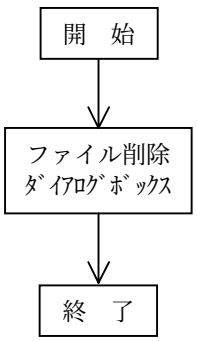
☆ＯＫ ボタン

ファイルを削除し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

ファイル削除は実行せず、ダイアログボックスを終了します。

下記の手順で操作します。



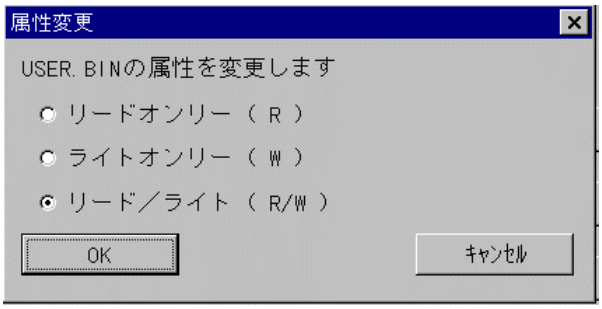
ファイル名を選択後、［削除］ボタンをクリックします。

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

2.6.5 ［９０Ｘファイル］＞ **［属性］** ダイアログボックス

９０Ｘのファイルの属性を変更します。

［属性変更］の表示形式です。



［操作方法］

マウスで属性を選択し、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

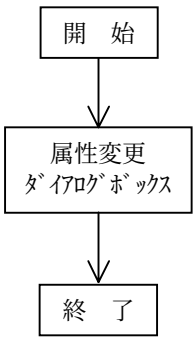
☆ＯＫ ボタン

選択した属性に変更し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

属性変更は実行せず、ダイアログボックスを終了します。

下記の手順で操作します。



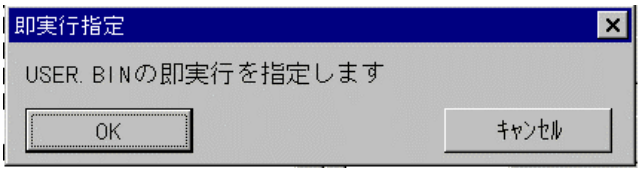
ファイル名を選択後、［属性］ボタンをクリックします。

ファイル属性を変更後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

2.6.6 ［９０Ｘファイル］＞ **［即実行］** ダイアログボックス

９０Ｘの電源投入時に即実行を行うユーザープログラムのファイル名を指定します。

［即実行］の表示形式です。



［操作方法］

［ＯＫ］ボタンをクリックします。

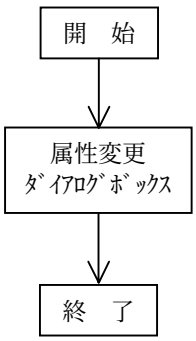
☆ＯＫ ボタン

選択したファイル名の即実行を指定し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

即実行指定は実行せず、ダイアログボックスを終了します。

下記の手順で操作します。



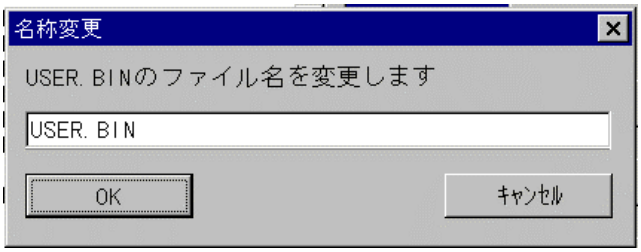
ファイル名を選択後、［即実行］ボタンをクリックします。

ファイル属性を変更後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

2.6.7 ［９０Ｘファイル］＞ **［名称変更］** ダイアログボックス

９０Ｘのファイル名を変更します。

［名称変更］の表示形式です。



［操作方法］

新しいファイル名を入力し、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

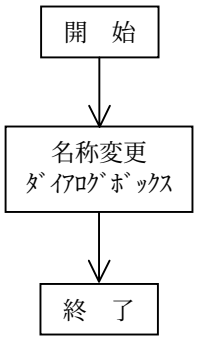
☆ＯＫ ボタン

新しく付けたファイル名に変更し、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

名称変更は実行せず、ダイアログボックスを終了します。

下記の手順で操作します。



ファイル名を選択後、［名称変更］ボタンをクリックします。

新しく付けるファイル名を入力後、［ＯＫ］ボタンを
クリックします。

2.6.8　ターゲットノード選択ダイアログボックス

９０Ｘとの「通信デバイス」がＣ－ＮＥＴの場合、ターゲット９０Ｘのノード番号を選択します。

[操作方法]

①マウスにより▼ボタンをクリックしてノード番号を選択します。
②ノード番号選択後、［ＯＫ］ボタンをクリックします。

☆Ｃ-ＮＥＴ使用時のノード番号

ターゲット９０Ｘノード番号です。

☆ＯＫ ボタン

選択したノード番号の設定を有効にし、ダイアログボックスを終了します。

☆キャンセル ボタン

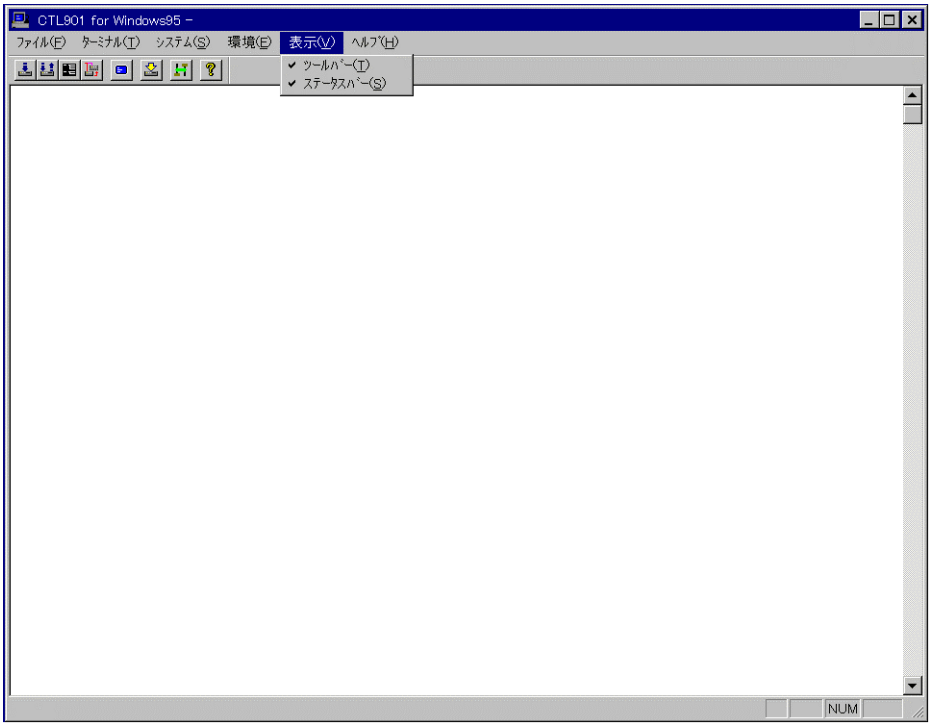
選択したノード番号の設定を無効にし、ダイアログボックスを終了します。

［注意］

１．ここで設定したノード番号は、［動作環境］で選択するノード番号と同じものです。
２．Ｃ－ＮＥＴ以外を選択されている場合、ノード番号は表示されません。

2.7　[表示]

ＣＴＬＷＩＮの表示状態を設定します。



☆ツールバー

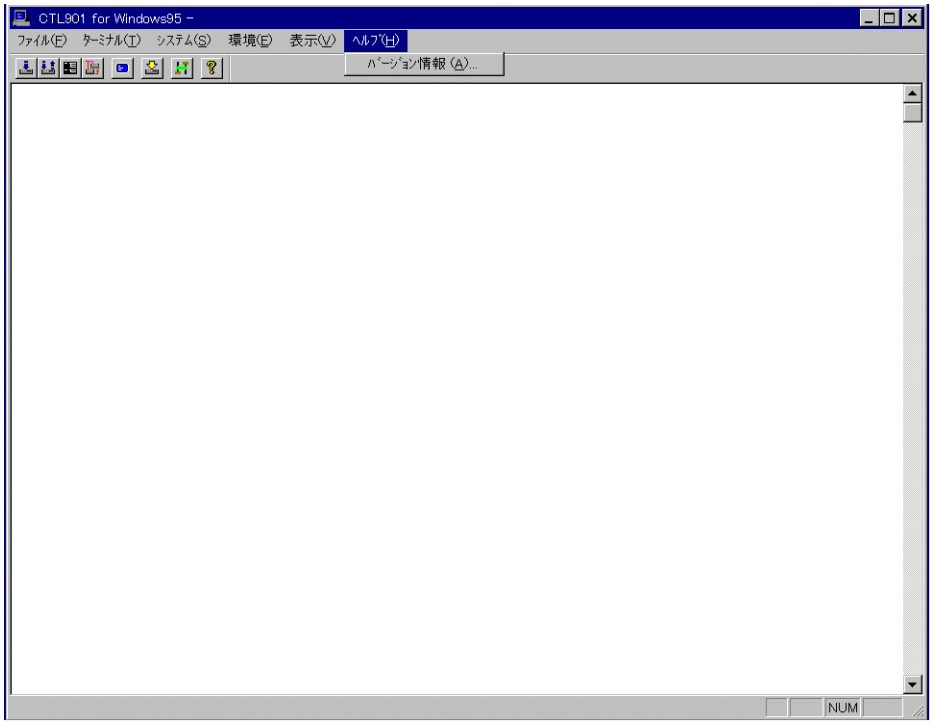
ツールバーの表示の有無を指定します。

☆ステータスバー

ステータスバーの表示の有無を指定します。

2.8　[ヘルプ]

ＣＴＬＷＩＮのバージョン情報など表示します。



☆バージョン情報

ＣＴＬＷＩＮのバージョン情報を表示します。

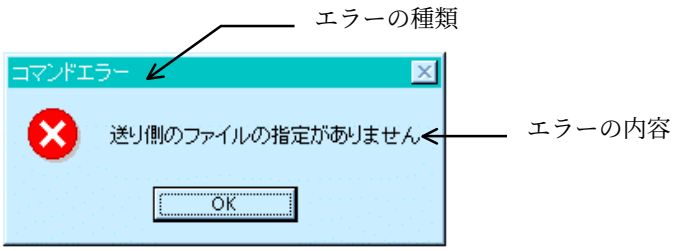
2.8.1 ［ヘルプ］＞［バージョン情報］ダイアログボックス

［バージョン情報］の表示形式です。

上記は Windows95　PC/AT用のものです。

３．エラーメッセージ

エラーメッセージは下記の形式で表示されます。



アプリケーションエラー

アプリケーション（ＣＴＬＷＩＮ）の起動および動作中に発生したエラーです。

メモリ不足のため開けません。

起動時にメモリの確保に失敗した場合表示します。

スレッド用のイベントが作成できません。

スレッド関数の作成に失敗（ターミナル処理をスレッド関数として登録するため失敗するとターミナルとして機能しません）した場合表示します。

コマンドエラー

システムコマンド発行時に発生したエラーです。

異常終了しました。

システムコマンド発行時にコマンドが受け付けられない場合表示します。

送り側のファイルの指定がありません。

ファイルのコピー時に送り側のファイル名を指定しないでコピーを開始した場合表示します。

ホスト間のコピーはできません。

ファイルのコピー時に送り側と送り側が共にパソコンの場合表示します。

操作エラー

９０２シリーズシリーズでは操作できない場合のエラーです。

本機能は使用できません。

実行できない場合表示します。

-Windows-

ファイルエラー

パソコンのディスクアクセス時に発生したエラーです。

ファイルオープンエラーが発生しました。

ファイルのオープンのアクセスが拒否された場合表示します。

ファイルが見つかりませんでした。

指定したファイルが見つからない場合表示します。

通信エラー

ファイル転送およびデータ転送時に発生したエラーです。

初期化ができません。

デバイスの初期化に失敗した場合表示します。

まだ接続されていません。

接続されていない場合表示します。

まだ送信が完了していません。

送信が完了していない場合表示します。

送信先が自局になっています。

送信先が自局になっている場合表示します。

送信先のノードが受信準備されていません。

送信先のノードが受信準備されていない場合表示します。

送信先のノードからアクノレッジが返ってきません。

送信先のノードからアクノレッジが返ってこない場合表示します。

伝送路がビジィー状態です。

伝送路が２９０ミリ以上ビジィー状態の場合表示します。

タイムアウトエラーが発生しました。

送受信中に一定時間アクセスがない場合表示します。

インターフェースに異常が発生しました。

インターフェースまたは制御関数に異常が発生した場合表示します。

インターフェースに未知の異常が発生しました。

インターフェースまたは制御関数に未知の異常が発生した場合表示します。

ＸＸＸに失敗しました。

上記以外のエラーが発生した場合表示します。

ノード番号がすでに存在しています。

自局ノード（マイノード）番号がすでにＣ－ＮＥＴ上にあります。
自局のノード番号の設定を変更してください。

ラインがビジー状態です。

Ｃ－ＮＥＴのラインがビジー状態です。

送信先からアクノリッジが返ってきません。

送信先の受信準備ができていないか、ノードが存在しません。

その他エラー

ＭＳ－Ｗｉｎｄｏｗｓ９５によってエラーが表示されることもあります。

９０Ｘシリーズ

９０Ｘ　ホスト通信プログラム操作説明書

２０００年７月第３版第２刷発行

発行所　　株式会社ファースト

本　　社　〒242-0001　神奈川県大和市下鶴間２７９１－５

ユーザ・サポート　　**FAX　046-272-8692**　　TEL　046-272-8691

E-mail : support@fast-corp.co.jp

B-000677